

6
2
207

東 京 國 立 大 學
二 冊 七 號 五 六 函 屬 類

因明活眼

卷上

014744-001-0

6-207

因明活眼

雲英 晃耀 / 著

上

M17

ABC-0033



雲英晃耀著

因明活眼

版權所有 著者藏版

因

東國齋
東國齋

山岡鐵舟君題字

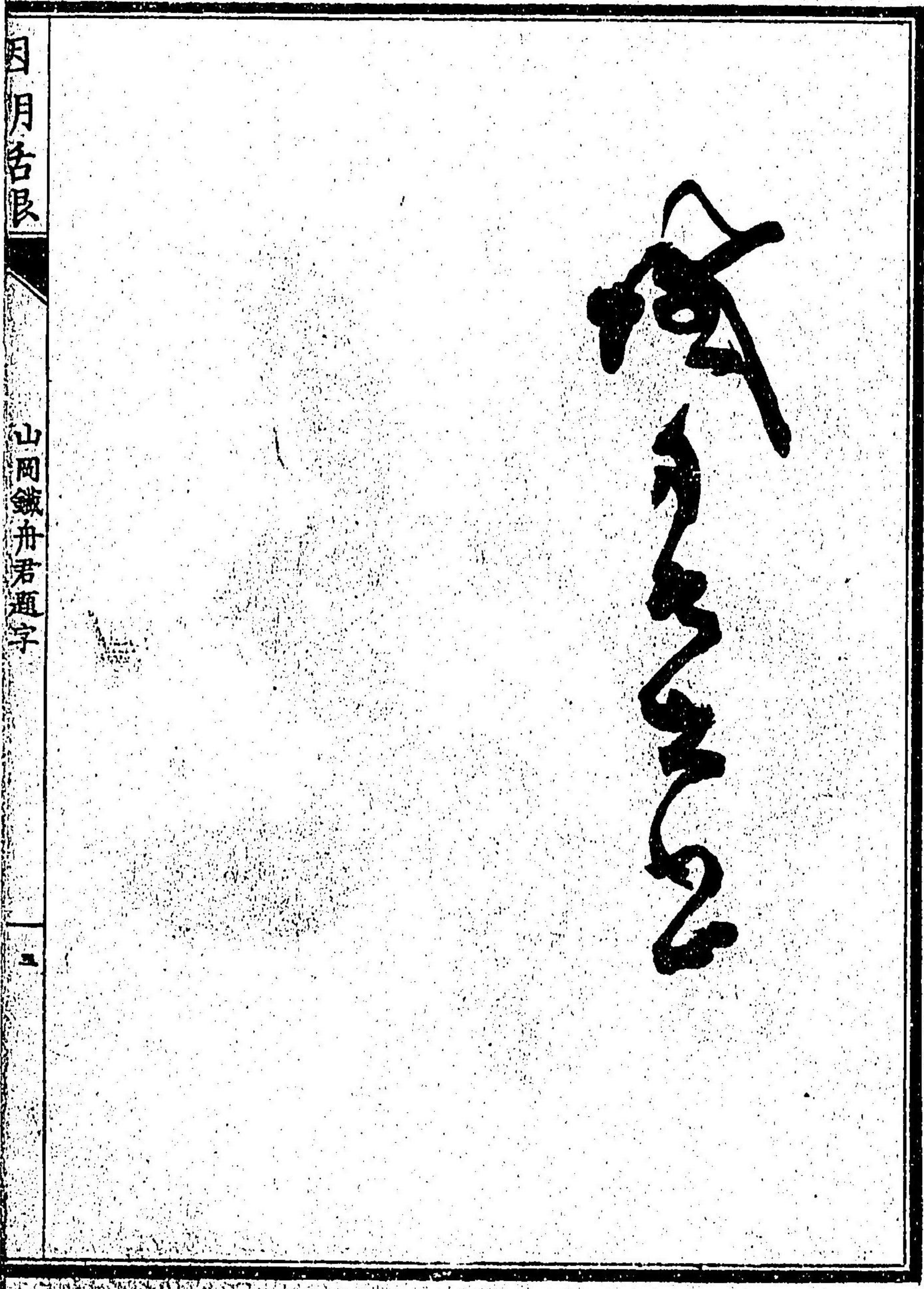
月古長

山岡鐵舟君題字





山岡鐵舟通字



田明活法序

田明活法者其是非之定先正
邪之判其法活法之定也
而以其小於其大也其法
而之其法末兩國之法其
宗乃秘藏之法其法

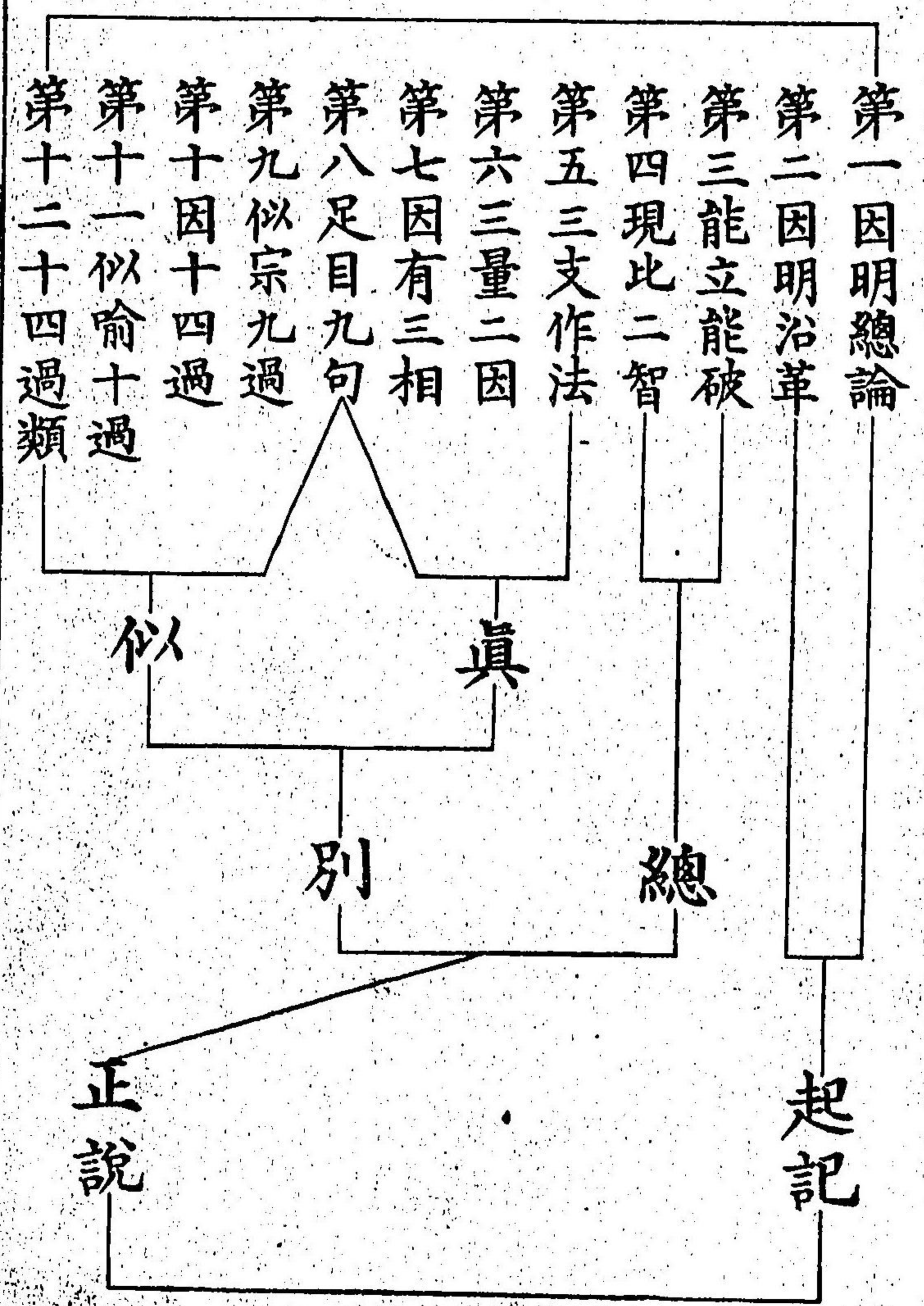
學を講ずる者も其の
を學ぶ者も其の道に
初下其是の之しく埋没し
て世と乃學林に流布其
知りて其體より其時我國乃
文化大に進み其て漢語の出

是れ其の體は其の道に
著し其の道に著し其の道に
著し其の道に著し其の道に
著し其の道に著し其の道に
著し其の道に著し其の道に
著し其の道に著し其の道に
著し其の道に著し其の道に
著し其の道に著し其の道に

其意元七毒在處一有深
 此者乃當時子番其處在信志淨
 師乃需之者一書之卷端
 又者乃在七毒之
 以此七毒之

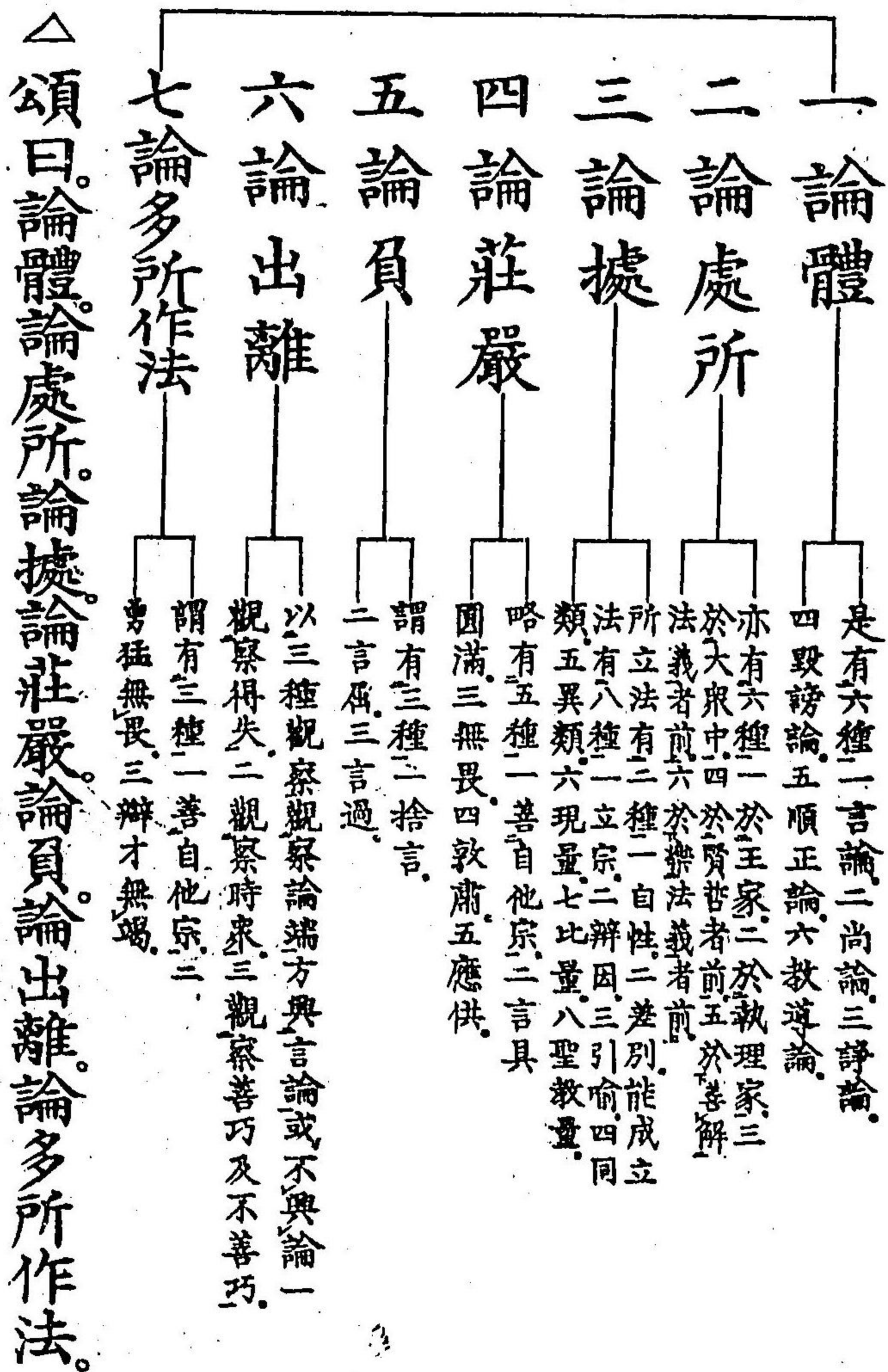
信於淨處

○十二章段列次圖

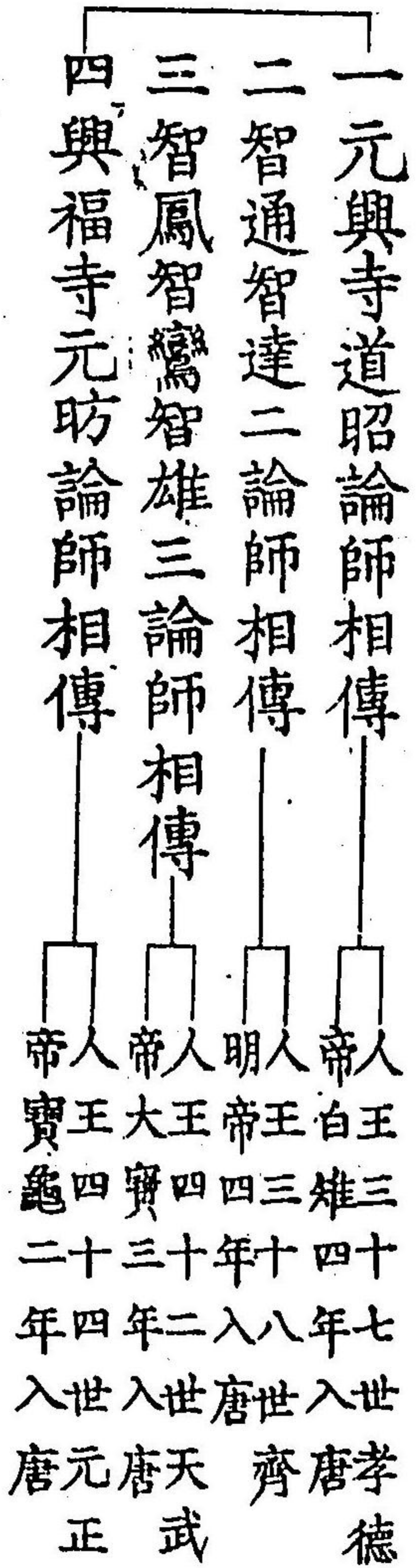


○瑜伽七因明圖

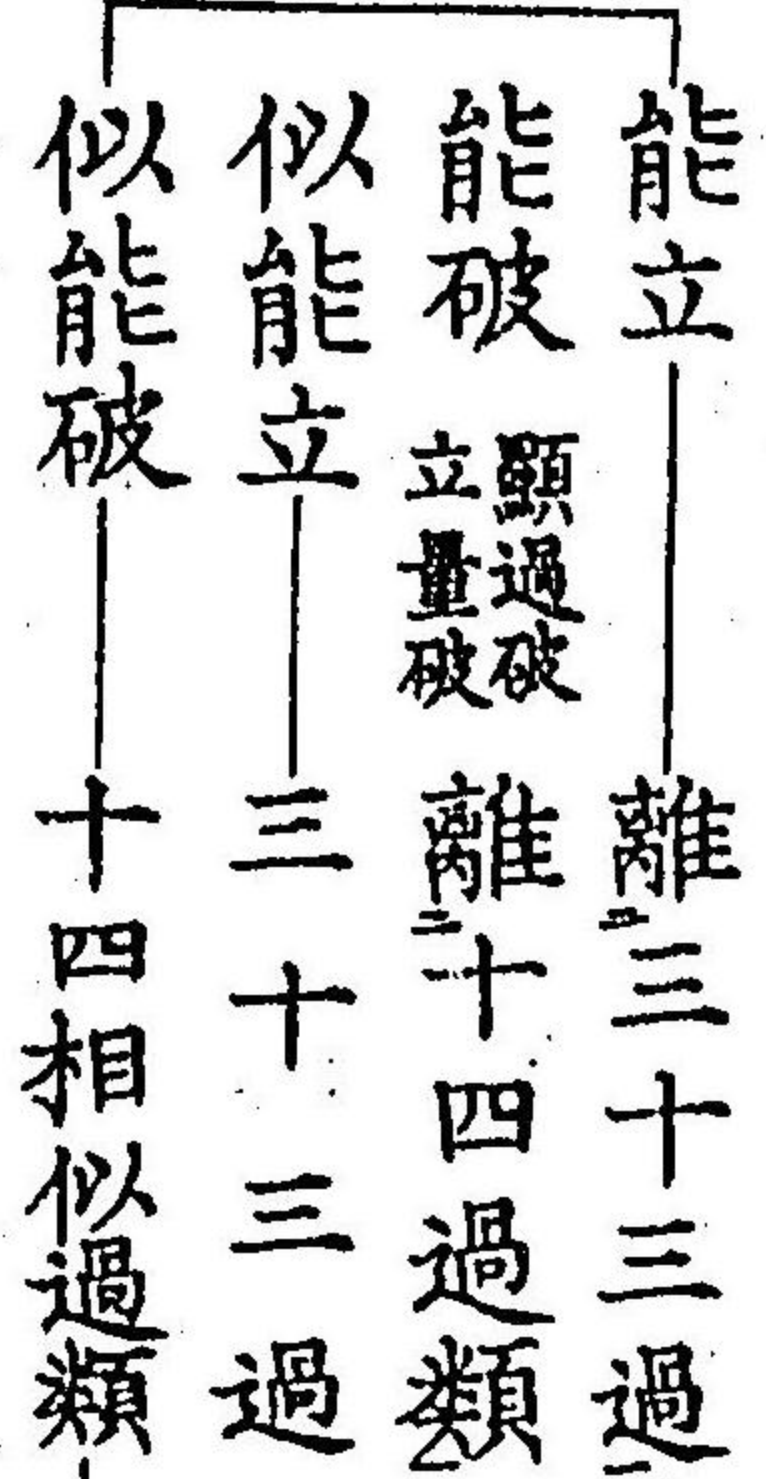
論十五 四葉



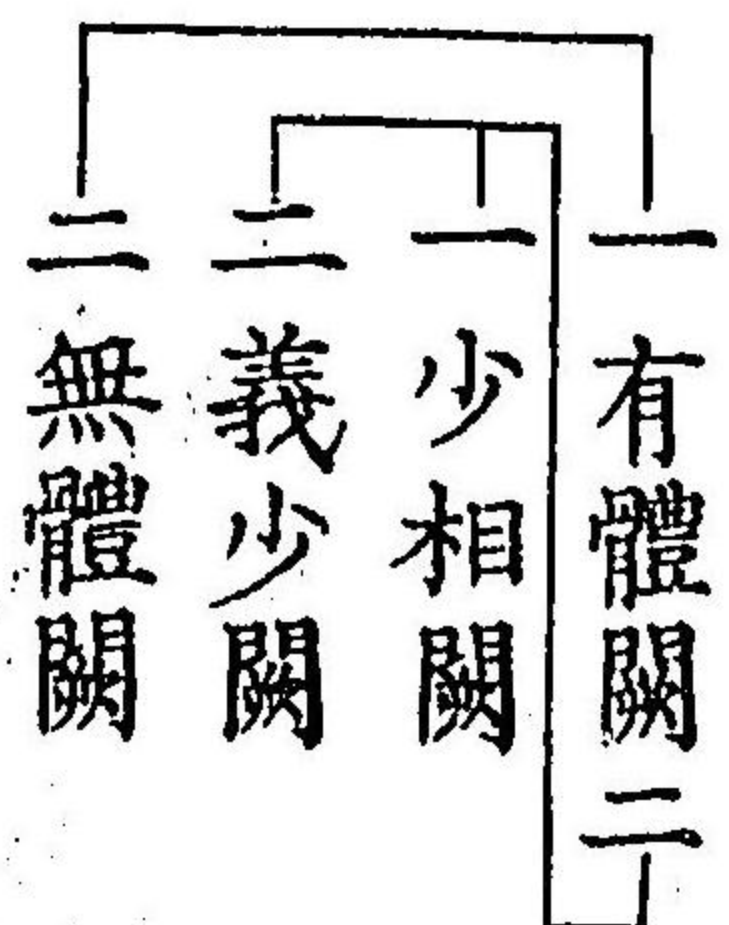
○日本四傳圖



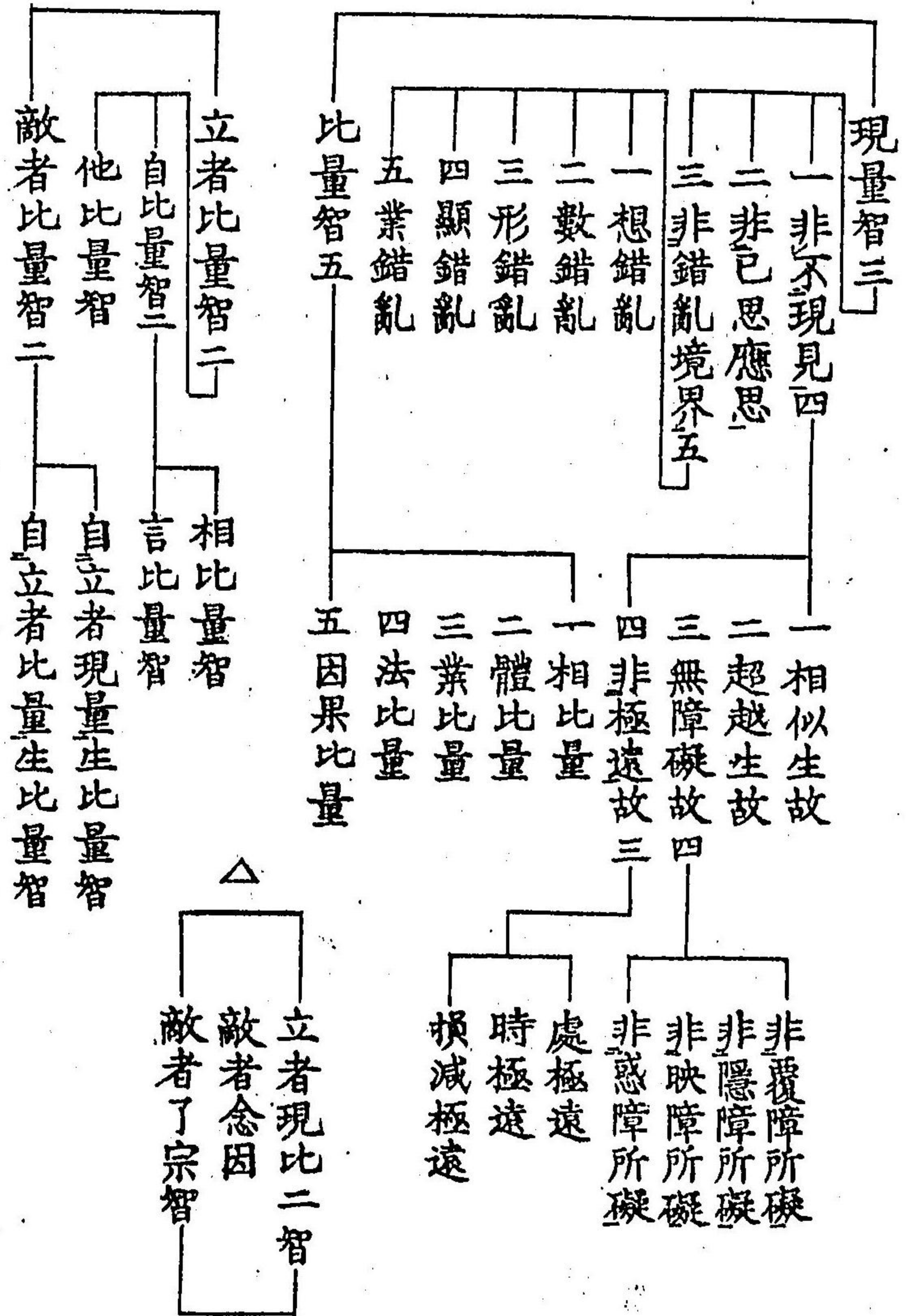
○能立能破圖



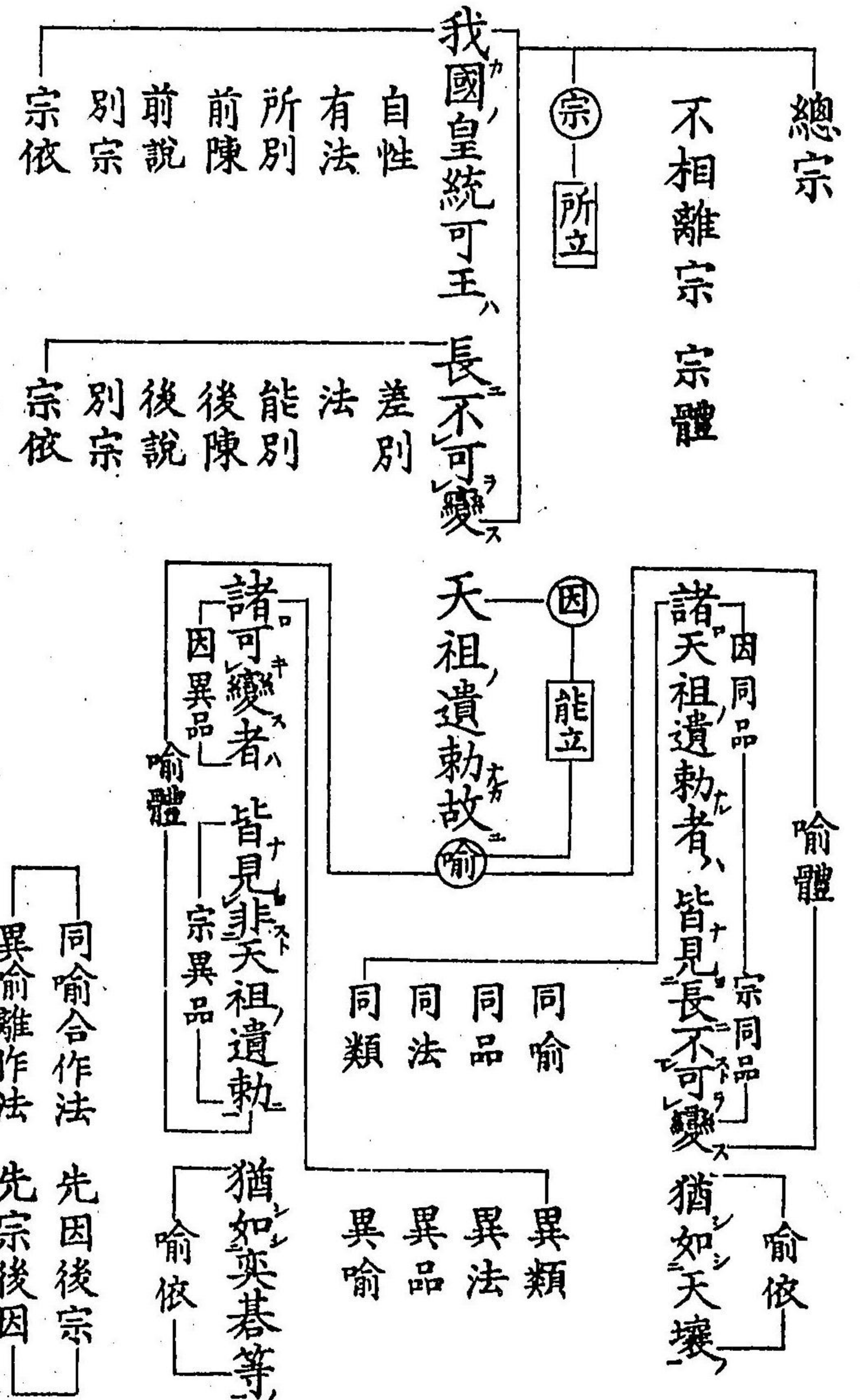
△圖減闕



○瑜伽現比二智圖



○宗因喻三支作法圖



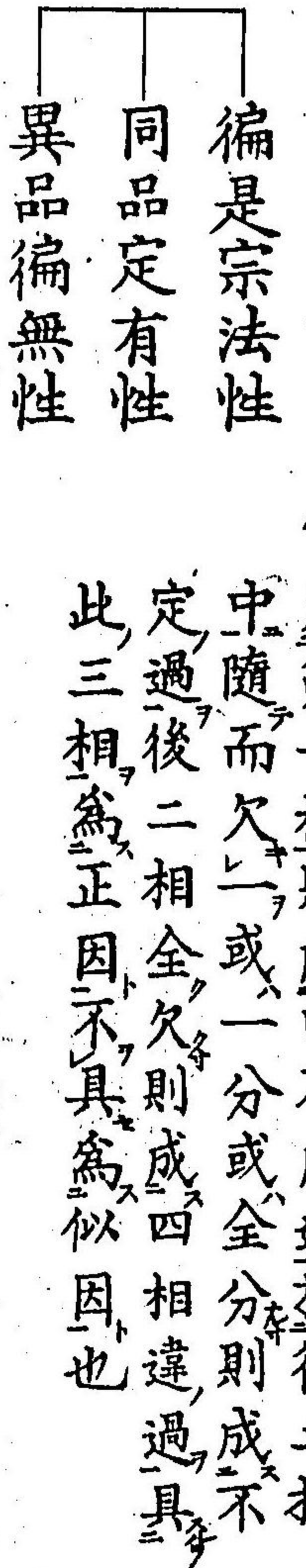
○西洋論理術第一例圖



○同第二例圖



○因有三相圖



○足目九句圖



頌曰二八為正因，四六相違攝，所餘皆不定，正似應當知。

○似宗九過圖

- 一 現量相違
- 二 比量相違
- 三 自教相違
- 四 世間相違
- 五 自語相違
- 六 能別不極成
- 七 所別不極成
- 八 俱不極成
- 九 相符極成

△後四過天主所知也

○似因十四過圖

- 一 兩俱不成
- 二 隨一不成
- 三 猶豫不成
- 四 所依不成
- 五 共不定
- 六 不共不定
- 七 同品一分轉異品徧轉不定

四不成

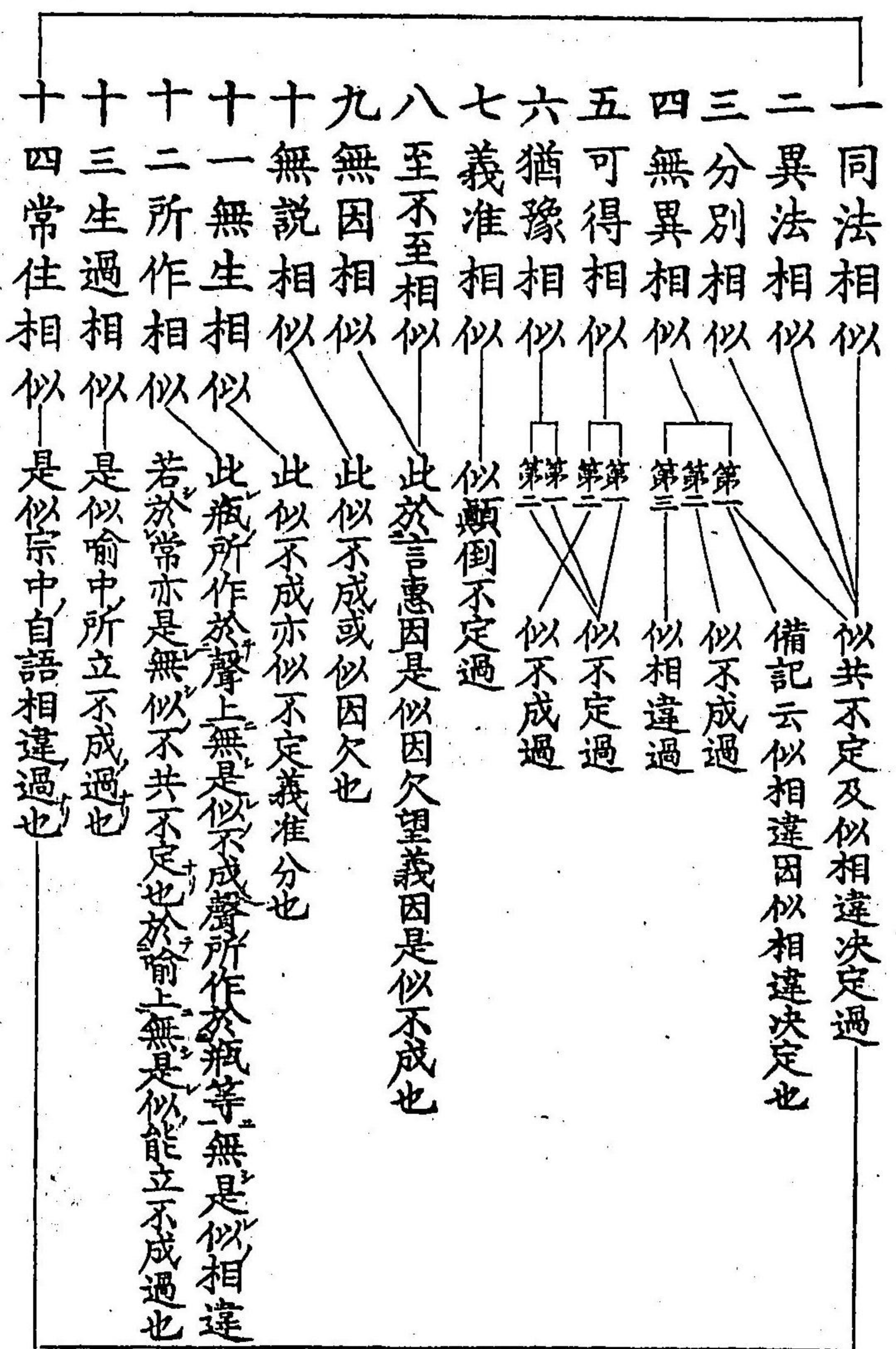
○似喻十過圖

- 八 異品一分轉同品徧轉不定
- 九 俱品一分轉不定
- 十 相違決定
- 十一 法自相相違
- 十二 法差別自相違
- 十三 有法自相相違
- 十四 有法差別相違
- 一 能立法不成
- 二 所立法不成
- 三 俱不成
- 四 無合
- 五 倒合
- 六 所立法不遣
- 七 能立法不遣
- 八 俱不遣
- 九 不離
- 十 倒離

六不定

四相違

○十四相似過類與三十三過對照圖



因明活眼卷之上

第一章 因明總論

三河 雲英晃耀 著

凡ソ論理ノ要ハ論者ガ論壇ニ登リ違他順自シ
 テ已ガ持論ヲ貫徹スルニ在リ而モ持論ヲ貫徹
 セント欲スルニ方法アリ方法トハ何ゾヤ曰ク
 因明法是ナリ因明法トハ何ゾヤ曰ク印度ノ論
 理術ニシテ所謂五明中ノ一明ナリ此ノ因明論
 理術ヲ用フルトキハ已ガ持論ニ條理無クバ已
 ナン苟モ條理有ラバ設ヒ政府裁判所、稠人、廣坐

因明六印
ノ所ニ於テモ言論敦肅義氣勇猛ニシテ意ニ於
テ畏レ言ニ於テ屈スル所口無ク條理明白言簡
ニシテ義通シ語少クシテ意貫ク論理ニ於テ實
ニ一大妙術ト謂ツベシ抑モ此ノ妙術ヲ因明ト
名ヅクル所以ハ此ノ論理作法ニ於テ宗因喻ト
三支ヲ分ツト雖モ唯ダ因ニノミ三相有リテ名
義俱ニ該貫ナル故ニ宗明喻明ト名ヅケズシテ
特ニ因ノ一支ヲ取リテ因明ト名ヅクルナリ又
夕因明ノ名ヲ釋スルニ冠註上本四紙以下五義アリ其一義ハ明ハ
五明ノ通名ニシテ因ハ五明ノ一名ナリ其二義

ハ因明ノ二字俱ニ五明ノ一名ナリ其ノ因ト云
フ者ハ立論者ソ言ニシテ凡ソ論理ハ立言ニ非
ザレバ以テ宗ヲ明顯スルコトナシ其ノ立者ノ
言中ニ自ラ智義ノ二ヲ含蓄ス又夕明ハ敵證者
ノ智ニシテ敵智ニ非ザレバ立論ノ旨趣ヲ了ス
ルコトナシ其ノ敵智ハモト立者ノ言義ヲ觀ジ
テ起リシ智ナリ故ニ敵智ノ中ニ自ラ言義ヲ含
蓄ス其三義ハ因ハ敵者ノ了宗智ヲ生ズル所ノ
立者ノ言生因ニノミ局リテ自悟ノ智義ヲ含蓄
スルコトヲ論ゼズ又夕明ハ敵者ノ了宗智ニノ

ミヨリテ立者ノ言義ノ二ヲ敵者ヨリ觀ズルコトヲ論ゼズ其四義ハ因ハ智了或ハ言生ナリ明ハ明顯ナリ此ノ因明ハ原ト佛經ノ名ナリ其五義ハ因明ニ三釋アリ一ハ陳那ノ本論ニハ天主ノ末論三八本末二論ニ通ズ此ノ如ク五義アレドモ第一義ヲ以テ最モ該貫トス又夕此ノ因明ニ就キテ瑜^{第十五卷}師地論ニ論體論處所論據論莊嚴論負論出離論多所作法ノ七因明ヲ説ク一ニ論體トハ論ノ體性ニシテ因明ハ言ノ究理ナレバ言ヲ體トス依テ言ノ立テ方が至要ナリ苟モ言

ノ立テ方が惡キトキハ設ヒ持論ニ條理ハ有リテモ論場ニ於テ負ケヲ取ルニニ論處所トハ王家執理家多人ノ中或ハ賢哲者ノ前或ハ善ク條理ヲ解スル者ノ前或ハ條理ヲ樂フ者ノ前等總シテ論場ヲ指ス大疏ニハ之ヲ束子テ王家證義者等ト云フ此ノ六處ニハ皆ナ證義ノ者アルベシ若シ證義ノ者ナクシテ論ズルトキハ互ニ水掛ケ論トナリテ法ノ正理ヲ顯スコト能ハズ故ニ議論ニハ確乎タル場處ヲ定メ證義者ノ參坐即チ聞キ役ヲ立テ子バナラヌ三ニ論據トハ據

トハ依ノ義ナリ故ニ大疏ニハ論所依ト云フ依
ル所ナリ只口ニ任セテ論ジテハ徒ニ車夫ノ論
ノ如クナル故ニ自性差別宗因喩現量比量聖教
量等ヲ所依トシテ論ズコレハ真能立等ニ當ル
四ニ論莊嚴トハ即チ真能破ノコトナリ莊嚴ト
ハカザリノコトニシテ奇麗ニ能破スルコトナ
リ而シテ其ノ法ニ五目ヲ分ツ其一目ハ善自他
宗所破明ナラザレバ能破立セズ敵者ノ宗ニ暗
クシテハ能破ノ手元ニ過失ヲ生ズ又夕自ノ宗
義ニ暗キトキハ違教等ノ失アリテ真能破ニナ

ラズ依テ自他ノ宗ヲ善ク明ムベキナリ其二目
ハ言具圓滿ナリコノ中又夕五支ヲ分ツ其一支
ハ不鄙トテ田舎ノ方言等ノ麁鄙ナル言ヲ用ヒ
ズ正キ音ヲ以テ破ス其二支ハ輕易トテ聞工易
キ世間通用ノ言ヲ用フ其三支ハ雄朗トテ雄豪
明朗ノ言ヲ用フ其四支ハ相應トテ前後相違セ
ヌヤウ能ク法義ニ契ヒテ我が所立ノ義ヲ失ハ
ヌヤウニ申シ陳ブルナリ其五支ハ義善トテ申
シ出ス言ノ顛倒セヌヤウニ論ズ此ノ五支ヲ具
スルヲ言具圓滿ト云フ其三目ハ無畏ナリ若シ

意ニ畏レ懼ル、コトアリテ兩腋ニ汗ヲ浸シ赤
面抔スルトキハ語音弱ク聞エテ敵者ヲ屈伏セ
シムルコト能ハズ依テ畏レ氣ナク破スルヲ無
畏トス其四目ハ敦肅ナリ敦ハヲサムルト訓ジ
肅ハツ、シムト訓ズ太緩太速ナラザルヤウ時
ヲ待チテ言ヲ發スルヲ云フオクレテ言ヲ發ス
ルハ敵者ニ云ヒ伏セラレタルヤウニ聞エテ惡
ク又夕敵者ノ未ダ云ヒ終ラザルニセキコソ
言ヲ發スレバ其ノ破スル所口却テ敵者ノ主義
ニ切中セザルコトアリ其五目ハ應供ナリ凡ソ

敵者ヲ破スルハタゞ正義ヲ顯ス爲ナレバ論ヲ
無理ニ強ヒズ敵者ノ意ニ隨ヒテ言ヲ起シ善友
ト話スガ如ク溫柔ニ破スルコトナリ然ラザレ
バ敵者ノ心忿怒シテ却テ正義ヲ通ジガタシ以
上ハ則チ真能破法ノ五目ナリ五ニ論負トハ論
ニ負クルコトナリ是ニ三支アリ其一支ハ捨言
ナリ若シ敵者ノ能破スル所口理ニ於テ至當ナ
ルトキハ立者言ヲ捨テ、復タ説カザルヲ云フ
其二支ハ言屈ナリ若シ立者ノ能立ニ過アリテ
敵者乃チ真能破ヲ以テ之ヲ破シ立者其ノ能破

ニ云ヒ詰メラレテ黙退屈伏スルヲ云フ其三支ハ言過ナリ言論雜亂シテ條理貫徹セザル等ヲ云フ是レ論負ノ三支ナリ六ニ論出離トハ考察シテ失敗ヲ出離スルコトナリ是レ又夕三支アリ其一支ニ考察得失是ハ將ニ論ゼントスルニ我が持論ノ得ト失トヲ考察シテ得ナレバ言ヲ發スベキナリ其二支ニ考察時衆是ハ論者論場ニ臨ミ先ヅ意中ニ於テ列スル所ノ大衆ヲ通測シ悉ク公明正當ノ者ナルヤモシクハ頑固僻執ノ者アリヤナキヤヲ考察シ若シ頑固僻執ノ者

アラバ論ヲ發セズ其三支ニ考察能_{スル}トハ是ハ已レ此ノ論說ニ於テ能力否カヲ熟考シ若シ已ガカノ耐フベキ見込アラバ論ヲ發スルナリ是レ論出離ノ三支ナリ七ニ論多所作法トハ能ク自他ノ宗義ヲ融貫シ勇猛ニシテ畏レ無ク辯才竭タルコト無キ論ノ作法ヲ云フ然ルニ彼我對論ノトキハ必ズ立者敵者證者ノ三人アルヲ法トス猶ホ官ノ裁判ニ原告被告判事ノ三人アルガ如シ若シ立者敵者ノミニテ證者ナキトキハ或ハ贅論ニ涉リ或ハ我意ヲ主張シ或ハ非理ヲ

執拗スル等ノトキ抑制スルコト能ハザルニ至
ル故ニ證者アリテ能ク是非ヲ定メ邪正ヲ證ス
是レ因明論理場ノ法則ナリ然ルニ世間ノ學者
此ノ因明論理ノ妙術ヲ以テ唯佛道ノ論議道具
ト思ヒ之ヲ外物視シテ他事ニ通用スベキヲ知
ラズ佛學者モ亦夕固有ノ舊量ヲ苦解スル分際
ニ止マリテ之ヲ新量ニ活用シテ世間論理ノ大
益ト爲スコトヲ知ラズ之ニ由テ今マ報國護法
ノ赤心ヨリ因明ヲ世間ニ活用弘通シ幾分ノ利
益ヲ施シ遂ニ文明ノ大教憲ヲモ羽翼セント欲

ス是レ晃耀ガ嘗テ詩ヲ賦シ要説ト因明ト供活用ト豈
將妙術ト付唐損トノ句アル所以ニシテ今マ復夕此
ノ書ノ著アル所以ナリ覽者幸ニ其ノ拙劣ヲ咎
メズ其ノ微衷ヲ亮セヨ

第二章 因明沿革

因明論理ハ原ト過去佛ノ説ナリ天地草昧ノト
キ足目仙人之ヲ承ケ初メテ九句因等ヲ製ス爾
來生顯二論師數勝二外道等各自ニ此ノ方法ヲ
以テ己ノ宗義ヲ主張セリ釋迦文佛出世已來特
ニ此ノ軌法ヲ用ヒテ外道ヲ摧伏シ正道ヲ保全

セラレシコト諸經ニ散見セリ次ニ彌勒大士之
ヲ瑜伽師地論ニ承ケ次ニ無着論師之ヲ顯揚對
法ノ二論ニ傳フ次ニ世親論師ハ其ノ師タル如
意論師ガ外道ト論議シテ負ケタルヲ遺恨トシ
舌ヲ嚙ミ切テ死ナレシヲ以テ自ラ奮發シテ別
ニ論軌論式論心ヲ製シ其ノ方法ヲ詳覈ニセラ
ルト雖モ惜哉其ノ書傳ラズ然レドモ軌式尚ホ
未ダ完全ナラザル所アリト云フ既ニシテ陳那
論師出ヅ其ノ名ヲ大域龍ト譯ス議論ノ達者ナ
ルコト五印度中向フ所口敵ナク勢ニ大龍ノ如

シ因テ名ヅク此ノ論師ガ因明正理門論一卷ヲ
造シ頹綱ヲ振擧シ重子テ規矩ヲ成シ三支ノ軌
法ヲ定メ真似ノ破立ヲ分明ニセシヨリ因明ノ
作法初メテ備レリ依テ世親已前ヲ古因明ト云
ヒ陳那已後ヲ新因明ト云フ聲無常ノ一量ヲ以
テ生顯ノ聲常ヲ粉碎シ眼等為他用勝ノ一量ヲ
以テ數論ノ神我ヲ破斥シ且ツ有性非有性ノ一
量ヲ以テ勝論ノ離實有性ヲ墮負セシムルコト
猶ホ鍊棒ヲ以テ蟻垤ヲ潰スガ如ク瀛車ヲ以テ
螳臂ニ當ルガ如シ次ニ天主論師出ヅ陳那論師

二事へテ三量共自他二因了生ヲ究盡シ八門能立能破似能
 立似能破、現量、比量、兩益自悟ヲ啓通シ以テ因明入
 正理論一卷ヲ製区爰ニ支那ニ於テハ唐ノ太宗
 ノ世三藏玄奘論師出デ求法ノ志篤ク遂ニ貞觀
 三年ヲ以テ奮發西遊ス固ヨリ今日ノ如キ汽車
 モ火船モ無キ時ユエ千中無一歸トモ號スル流
 沙葱嶺ノ難處ヲ越エ不可言ノ艱苦ヲ嘗メ始メ
 テ能ク印度ニ達スルコトヲ得タリ凡ソ在竺十
 七年ニシテ貞觀十九年ニ至リテ歸唐ス其ノ求
 法ノ日初ノ北印度ノ衆綱論師ニ逢ヒテ因明ヲ

授カリ後ニ中印度ノ戒賢論師ニ事ヘ更ニ奧義
 ヲ討究ス歸唐ノ後三千徒弟中ニ於テ獨リ上足
 ノ慈恩論師ニ此ノ法ヲ授ク慈恩論師謹デ三藏
 相傳ヲ承ケ入正理論疏六卷等ヲ製ス次ニ淄州
 論師出デ義斷一卷纂要一卷ヲ製シ次ニ智周論
 師出デ前記後記六卷ヲ撰ス凡ソ此等ノ書籍幸
 ニ今マ皇國ニ現在セリサテ此ノ因明法ノ皇國
 ニ流傳スル所以ニ於テ凡ソ四傳アリ一ハ人王
 三十七世孝德帝白雉四年癸丑即チ今明治十六
 年ヲ距ルコト一千二百三十一年前元興寺道昭

論師入唐シテ玄奘三藏ニ面シ慈恩論師ト同學
ス二ハ人王三十八世齊明帝四年戊午智通智達
ノ二論師入唐シテ正ク玄奘三藏ニ承ケ傍ラ慈
恩論師ニ稟ク是ハ道昭論師入唐ヨリ六年後ナ
リ三八人王四十二世文武帝大寶三年癸卯智鳳
智鸞智雄ノ三論師勅ヲ受ケテ入唐シ智周論師
ニ會フテ傳フ是レ道昭論師入唐ヨリ五十一年
後ナリ四ハ人王四十四世元正帝靈龜二年丙辰
興福寺元昉論師入唐シテ同ク智周論師ニ承ク道
昭入唐ヨリ六十四年後ナリ已上ノ四傳自ラ分

レテ南北ノ二傳トナル第一傳ノ元興寺道昭論
師ノ派ヲ南寺傳ト云フ第四傳ノ興福寺元昉論
師ノ派ヲ北寺傳ト云フ中間二傳ノ中智通智達
二論師ノ傳ハ南寺ニ合派シ智鳳智鸞智雄三論
師ノ傳ハ後ニ傳ラズ傳ヘ聞ク人王六十世醍醐
帝延喜ノ頃主上モ因明ヲ好ミ給ヘバ殿中ノ論
筵ニ互ニ因明ノ規則ニテ論議ヲセシコトアリ
トサスレバ慈惠大師ノ時分ニハ因明大流行ニ
テ慧心僧都ハ俱舍因明ハ此ノ土ニ究ムト申サ
レシ程ニテ各宗ニ名高キ因明者ナリ宇治左大

臣頼長公モ因明ノ達人ナル故ニ南寺相承ニ載
ス又夕聞ク輓近聽訟ニ名高キ大岡越前守モ此
ノ法ヲ學ビテ裁判ヲナス依テ其ノ裁判明決一
モ理ニ契ハザルハナシト意フニ亦夕因明活用
ノ實効ナリ近來各宗ニ於テ長老碩徳日ヲ追フ
テ此ノ學ヲ講究セラレ加フルニ會議ノ盛ナル
時勢ナレバ數年ヲ經ズシテ此ノ學大ニ流行ス
ルニ至ラン歟是レ我が豫期企望スル所ナリ

第三章 能立能破

因明論理ニ於テ真能立似能立真能破似能破ト

云フコトアリ真能立トハ宗因喻ノ三支無過圓
滿ナルヲ用ヒテ樂為ノ宗義ヲ立テ又クヲ云フ
是ニ新古因明ノ區別アリテ古因明ニハ第一章
ニ示ス瑜伽論ハ能立中第三論所依中ニ於テ自
性差別ノニヲ所立トシ宗因喻現比教ノ三支三
量ヲ能立トス新因明ニテハ宗ノ一ヲ所立トシ
テ因喻ノニヲ能立トシ且ツ現比ノ二ハ立具ト
シテ正キ能立ト名ヅケズ是レ因明ニ於テ古今
同異ノ一大義門ナリ其ノ詳ナルハ此ノ書ニ盡
スベキニ非ズ又夕立宗ノ法ニ大畧二種アリ其

一ヲ唯遮無表ト云フ譬ヘバ我ハ無ナリト云ハ
ンガ如キハタゞ我ヲ遮セント欲シテ別ニ無ヲ
立テズ此ノトキハ喻モ亦タ唯遮ニシテ表ヲ取
ラズ其二ヲ亦遮亦表ト云フ譬ヘバ我ハ常ナリ
ト説クガ如キハ唯ダ無常ヲ遮スルノミナラズ
亦タ常體アルコトヲ表ス此ノトキハ喻モ亦タ
遮表アリト云フガ法ナリ又タ因明ノ法ニ有無
ト云フコトアリ若シ無ヲ以テ宗トスレバ有ハ
能成ニ非ザルガ故ニ因モ同喻モ皆ナ亦タ無ヲ
出スベシ有ヲ出スベカラズ而ルニ若シ有ヲ出

ストキハ因ニ所依ナク喻ニ所立ナキコトニナ
リテ因喻ヲ成サズ但シ有ハ無ニ異ナルガ故ニ
異喻ニ至リテハ有ヲ出シテ可ナリ又タ若シ有
ヲ以テ宗トスレバ有ハ能成ナレバ因モ同喻モ
皆ナ亦タ有ヲ出スベシ無ヲ出スベカラズ而ル
ニ若シ無ヲ出ストキハ因ハ能成ニ非ズ喻ニ所
立ナキコトニナリテ亦タ因喻ヲ成サズ但シ異
喻ハ唯ダ止濫ヲ主トスル故ニ有無並用フルコ
トヲ得ルナリ又タ有法ニ就キテ論ズレバ無ノ
因ノ依ノ有法ハ有無ニ兩通ス有ノ因ノ依ノ有

法ハ唯ダ有ノミニ關ス有ノ因ノ依ノ有法ノ無ナルハ依ル所ナキ故ニ其ノ因立セズ所依不成ノ過アリト云フガ定規ナリ然ルニ此ノ有無ノ義ニ至テハ先徳ノ異説ニシテ概論スベカラズト雖モ因明真能立ノ大例ナレバ之ヲ領會セザル可ラズ次ニ似能立トハ宗因喻ノ三支ニ過アリテ已ガ持論ヲ立テヌクコト能ハズ其ノ大者ヲ舉グレバ宗ニ九過アリ因ニ十四過アリ喻ニ十過アリ合シテ三十三過トナル就中二十九過ハ陳那ノ立ツル所ニシテ餘ノ四過ハ天主ノ増

加スル所ナリ又夕欠減過ト云フコトアリ是ニ有體闕無體闕ノ二アリ有體闕トハ因明ハ言ヲ體トス宗因喻三支ノ言體ハアレドモ闕過アルヲ云フ其ノ中ニ少相闕義少闕ノ二アリ少トハ闕ノ義ナリ少相闕トハ因ノ言支ハ闕ケザレドモ三相ノ義ヲ闕クヲ云フ之ヲ三十三過ニ對映スレバ因ノ過ニ當ル義少闕トハ因喻ノ言支ハアレドモ過アリテ因喻ノ義ヲ闕クヲ云フ三十過ニ對映スレバ因ノ十四過ト喻ノ十過トニ當ル次ニ無體闕トハ或ハ宗ノミアリテ因ト喻

トノ闕ケテ無ク或ハ宗ト因トアリテ喻ノミ闕
ケテナキヲ云フ西洋ロジツ次ニ真能破トハ他
ノ持論ヲ破シ遂グルヲ云フ此ノ真能破ノ為ニ
所破トナル者ハ似能立ノ三十三過ナリサテ其
ノ破法ニ顯過破ト立量破トノ二アリ顯過破ハ
或ハ立量シ或ハ立量セズシテ立者ノ量ニ過ア
ルヲ顯ハシテ之ヲ破スルヲ云フ立量破ハ必ズ
立量シテ破スルヲ云フ三十三過ヲ分別スレバ
比量相違ト違決ト四相違トノ六過ハ能違ノ量
アルガ故ニ立量破ニ當リ餘ノ二十七過ハ唯ダ

顯過破ニ當ル故ニ立量破ハ必ズ顯過破ニ歸シ
顯過破ハ必ズシモ立量破ヲ要セザルガ規矩ナ
リ次ニ似能破トハ立者ノ量ハ無過圓滿ノ真量
ナルニ破者ヨリ強ヒテ其ノ過ヲ求メテ破ス可
カラザルヲ破スルヲ云フ由テ此ノ似能破ノ為
ニ正對トナルハ真能立ナリ是ノ似能破モ小過
無數ナレドモ大過ヲ舉グレバ十四相似過類ト
ナル此ノ十四相似過類ハ過相幽邃ナレバ古來
因明家ト稱スル中ニ之ヲ剖釋スル者ハ幾人モ
ナキコトナリキ

第四章 現比二智

智ニ二種アリ曰ク現量智曰ク比量智ナリ現量智トハ眼ニ色ヲ見テ色ト知リ耳ニ聲ヲ聞キテ聲ト知ル等見聞ニ隨ヒテ發スル智覺ヲ云フ比量智トハ一ヲ知リテ二ノ然ルヲ比度シ此ヲ知リテ彼ニ比例スル類ヲ云フ蓋シ量トハ量度ノ義ニシテ智ノ用ナリサテ瑜伽師地論ニ現量ニ就キテ三種ノ區別ヲ立テ、一ハ非不現見ニハ非已思應思三ハ非錯亂境界ト為シ第一ノ非不現見ノ下ニ於テ相似生ト超越生ト無障礙ト非

極遠トノ四故ヲ開キ第三故ノ下ニ於テ復タ非

覆障所礙黒闇ト非隱障所礙神通ト非映障所礙

日光映奪星月及月光映奪衆星等ト非惑障所礙目眩顛トノ四種

ヲ開キ第四故ノ下ニ於テ一ニ處極遠ニニ時極

遠ニ損減極遠ノ三種ヲ開キ此ノ總別九種ニ

非ルヲ第一ノ非不現見ノ現量ト云フ第二ニ非

已思應思トハ良醫ノ藥ヲ病者ニ與フル病苦未

ダ愈エザルガ如キヲ應思ト為シ其ノ病苦已デ

ニ愈エルガ如キヲ已思ト為ス應トハ將來ヲ顯

ス已トハ過去ヲ示ス此ノ已思應思ニ非ザルヲ

第二ノ現量ト為ス第三ニ非錯亂境界トハ是ニ
 五種アリ一ヲ想錯亂トス鹿ハ熱渴シテ腸淡ニ
 於テ水想ヲ起スガ如キヲ云フニヲ數錯亂トス
 少數ニ於テ多數ヲ起スガ如ク或ハ翳眼者一月
 輪ノ所ニ於テ二月輪ノ像ヲ見ルガ如キヲ云フ
 三ヲ形錯亂トス旋火ヲ見テ輪形トスルガ如キ
 ヲ云フ四ヲ顯錯亂トス黃疸者非黃ノ物ヲ見テ
 黃色トスルガ如キヲ云フ五ヲ業錯亂トス無業
 ノ物ヲ見テ有業トナスヲ云フ譬ヘバ山影水ニ
 在ルトキ其ノ水ヲ汲ミテ山ノ動クヲ疑ヒ已レ

舟ニ坐スルトキ其ノ舟ノ行クヲ覺エズシテ兩
 岸ノ走ルヲ疑フガ如キヲ云フ此ノ五種錯亂ノ
 境界ニ非ザルヲ第三ノ現量ト為スト云フ如是
 ノ現量ニ畧ボ四種ノ所有アリ一ヲ色根現量ト
 ス五色根所行ノ境界ナリニヲ意受現量トス諸
 ノ意根所行ノ境界ナリ三ヲ世間現量トス前二
 種ヲ總ジテ一世間現量ト名ヅク四ヲ清淨現量
 トス世間現量ニ非ザル出世ノ智ガ所行ノ境ニ
 於テ有ヲ知リテ有トシ無ヲ知リテ無トスル等
 ナリ次ニ比量ニ就キテ五種ノ區別ヲ立ツ一ハ

相比量二ハ體比量三ハ業比量四ハ法比量五ハ
 因果比量ナリ相比量トハ烟ヲ見ルニ由テ相比
 量シテ火アリト知り角ヲ見ルニ由テ相比量シ
 テ牛有リト知ル等ノ如シ體比量トハ或ハ現在
 ヲ以テ過去ニ比類シ或ハ過去ヲ以テ未來ニ比
 類シ或ハ現在ヲ以テ未來ニ比類スル等ノ如シ
 業比量トハ遠處ニ在リテ動作スル者ヲ望見シ
 テ人ナリト比知シ動作セザル者ヲ望見シテ是
 レ人ニ非ズシテ杙ノ類ナリト比知シ身ヲ曳キ
 テ行クヲ見テ是レ蛇ナリト比知スル等ノ如シ

法比量トハ盛アルヲ見テ必ス衰アルヲ比知シ
 會アルヲ以テ必ズ離アルヲ比知シ生アルヲ以
 テ必ズ死アルヲ比知スル等ノ如シ因果比量ト
 ハ因ヲ以テ果ヲ比知シ果ヲ以テ因ヲ比知スル
 ヲ云フ譬ヘバ法ノ如ク王ニ事フル人ヲ見テ其
 ノ人必ズ廣大ノ祿位ヲ獲ベシト比知シ廣大ノ
 祿位ヲ獲タル人ヲ見テハ其ノ人先キニ已ニ法
 ノ如ク王ニ事ヘシコトヲ比知シ或ハ食量平等
 ナラザル人ヲ見テハ其ノ人後ニ當ニ病アルベ
 キヲ比知シ現ニ病アル人ヲ見テハ其ノ人先キ

ニ食量平等ナラザリシヲ比知スルノ類ニシテ
凡テ現在ノ果ヲ見テ過去ノ因ヲ比知シ現在ノ
因ヲ見テ未来ノ果ヲ比知スル等ヲ云フ以上乃
チ比量ノ五種ナリ又タ同ヲ以テ比スルアリ異
ヲ以テ比スルアリ同ヲ以テ比スルハ先キニ示
ス煙ヲ見テ火アリト比知スル等ノ如シ異ヲ以
テ比スルトハ電ヲ見ルトキハ糸稼ヲ損ズルヲ
比知シ現ニ糸稼ノ損ズルヲ見テハ已ニ風電ア
リシヲ比知スルガ如シ又タ此ノ比量智ニ立者
ノ比量智ト敵者ノ比量智トアリ立者比量智中

ニ冠註中本二十五統出自比量他比量ノニアリ自比量中ニ相比量言
比量ノニアリ相比量トハ前ニ示スガ如シ言比
量トハ他人ノ言ヲ聞キテ自ラ比度シテ知ルヲ
云フ此ノニツノ者ヲ合セテ自比量トス他比量
トハ他ノ為ニ比量ノ言ヲ安立シテ解ヲ發セ令
ルヲ云フ總ジテ比量ノ言ヲ安立セント欲セバ
先ヅ他ノ敵ノ所立ヲ審察スベシ所破明ナラザ
レバ能破何ゾ立セン他ノ所立ヲ審察シテ若シ
自ノ持論ト合符スルトキハ更ニ論ズルニ及バ
ズ唯ダ自他ノ持論互ニ相ヒ乖戾スル故ニ比量

ノ言ヲ用ヒ三支作法シテ他ノ不共許ヲシテ共
許セシムルナリ依テ常言ノ因明ハ此ノ他比量
ノ一邊ヲ取ル次ニ敵者比量智中ニ立者ノ現量
ヨリ生ズル比量智ト立者ノ比量ヨリ生ズル比
量智トノ二種アリ先ヅ立者ノ現量ヨリ生ズル
比量智トハ立者ガ現量智ヲ以テ烟ヲ見テ立量
シテ云ク彼處應有火宗現烟故因此ノ現烟ノ因
三相具足セルヲ以テ敵證者ガ此ノ因ヲ念ジテ
彼ノ處ニ必ズ火有リトスル審觀察ノ正比量智
ガ起ル等ヲ云フ次ニ立者ノ比量ヨリ生ズル比

欠

MISSING

第五章 三支作法

因明ノ作法ハ宗因喻ノ三支ヲ以テ成立ス宗ト
ハ所尊所崇所主所立ノ義ニシテ論場ニ臨ミ已
ガ論旨ヲ敬重尊崇シテ陳明シ或ハ意中ニ已ガ
主義ノ所立ヲ樂為スルヲ名ヅク因トハ所由所
以建立順益ノ四義ニシテ已ガ持論ノ公平ナル
理由ヲ證スル者ヲ云フ故ニ縦ヒ宗ヲ擧グルモ
其ノ公平ノ理由ヲ示サミレバ不共許ノ敵者ヲ
シテ共許セシムルコト能ハズ依テ論述スル者
必ズ宗ノ次ニ因ヲ擧グルヲ例トス因ヲ具サニ

ハ因故ト云ブ「レ」喻トハ譬也、况也、曉也ト註シテ概
略スレバ引例ノコトナリ前ニ已ニ樂レ為ノ宗ニ
其ノ理由ノ因ヲ舉ゲテ示スト雖モ敵者ニ於テ
未ダ釋然タラザルトキハ敵者ノ熟知スル所ノ
例ヲ引キ之ヲ證明シテ其ノ心服ヲ得ル為ニ舉
グル者ヲ云フ然ルニ此ノ喻ニハ同喻異喻ノ二
アリテ同喻トハ同例ノコトナリ異喻トハ異例
ノコトナリ同例ノ一喻ニテ事足ルベキニ更ニ
異例ノ異喻ヲ出スハ義ノ濫ヲ止メンガ為メナ
リ即チ裏釘ウラナギヲ曲カグル如ク裏カラ反説シテ表ノ

義ヲ確實ナラ令ル為ナリ如此宗ト因トノ外ニ
又夕同喻ト異喻トヲ以テ已ガ持論ヲ主張スル
トキハ主義ノ堅固ナルコト鐵壁ノ如クニシテ
決シテ敵者ニ破ラル、コトナシ但シ十全ヲ以
テ論ズレバ如此同異ノ二喻ヲ具足スベキナレ
ドモ若シ論議ノ間ニ於テ已ガ説カント欲スル
所ノ喻ハ敵者ノ已ニ知悉スル所ナラバ或ハ同
喻カ或ハ異喻カ敵者ノ未ダ知悉セザルモノ一
喻ヲ説キ必ズシモ二喻ヲ具足セズシテ可ナリ
若シ敵者ニ於テ宗ト因トノ兩義ヲ聞キテ即チ

釋然タラバ喩ハ説カズトモ亦タ可ナリ。因明家ノ前哲中ニ此ノ三支外ニ別ニ敵者ノ所立ヲ審察スル審察支ト云フ一項ヲ立テラレタレドモ新因明ニテハ別ニ一支トハ立テズ何ニトナレバ敵者ノ所立ヲ審察スベキコトハ論議ニ於テハ無論ノコトナレバナリ。若シ他ノ所立ヲ審察セ子バ立量ハナラヌ故ニ必ズ三支外ニ審察支ヲ別立ストナラバ例スルニ父母アリテ始メテ能ク立論スベキ子ヲ生ズル故ニ父母支ト云フ一支モ亦タ別立スベキコトニナリテ終ニ立支

無窮ノ難ヲ生醸ス。是レ新因明ニ於テ審察支ヲ別立セザル所以ナリサテ又タ支ト云フハ支分支別ノ義ニシテ一事ヲ成リ立ツルニ宗因喩ノ三別アルユエ三支ト云フ此ノ三支ヲ能立所立ヲ以テ分別セバ第三章ニ示スガ如ク新因明ニテハ宗ノ一ヲ所立トシ因喩ノ二ヲ能立トスル所立ノ所ハ原告被告ト云フ被ノ義ニシテラ。ル。ト義訓スル宗ノ一ハ因喩ノ二ヨリ成立セラ。ル、モノ故ニ所立ト云ヒ因喩ノ二ハ能ク宗ヲ成立スルモノ故ニ能立ト云フ古来此ノ宗因喩

三支作法ノ立量ヲ示スニ多ク聲無常宗所作性
故因猶如瓶等同猶如虚空異諭ト云フ比例法
ヲ以テ識知セシムルコトナリ此ノ作法ハ無過
圓滿ノ真量ニシテ我輩固ヨリ問然スベカラザ
レドモ數千年前印度國ニアリテ佛者ガ聲生論
師ニ對シテ聲ノ常カ無常カヲ論定スル舊量ナ
レバ明治聖世ノ活因明ニハ非ズ故ニ今マ且ク
之ヲ閣ク
然ルニ近頃本邦言路洞開ノ盛時ニ乘ジ或ハ好
ミテ政ヲ議シ律ヲ論ジ甚キニ至リテハ其身

皇國ニ生レ乍ラ掛ケ卷モ畏コキ萬國無比ノ御
國體アルヲ忘レ動モスレバ彼ノ合衆國ノ共和
ノ政治ヲ艷稱スルモノ世間未ダ必ズシモ其ノ
人ナカラズトス忌ミ憚リナキノ甚キ者ト云フ
ベシ予之ガ為メニ積年杞憂ヲ抱ク故ニ今マ立
スル所ノ本量ハ三支作法ニ於テ無過圓滿ニハ
非ガルベケレドモ且ク日本紀所載ノ皇大神ガ
御孫瓊々杵ノ尊ニ勅シ給ヒシ瑞穗國是我子孫
可王之地也宜爾皇孫就而治焉行矣寶祚之隆當
與天壤無窮者矣ノ天語ヲ依憑トシ又夕彼ノ無

忌無憚ノ妄論者ニ共和論師ノ假名ヲ施シ是ヲ
敵者トシ尊王護國ノ杞憂者ニ尊王論師ノ假目
ヲ付シ別ニ一箇ノ新比量ヲ建立シ以テ此ノ因
明活用ノ一斑ヲ世間ノ論士ニ識知セシメ併セ
テ彼ノ無忌無憚ノ妄論ヲ粉碎塵散セシメント
欲ス但シ因明ハ敵者即チ反對論者ヲ定ムルヲ
要トス然ルニ今マ定ムル所ノ敵者ハ共和政治
等ヲ貴フ所ノ外國人等ヲ指スニ非ズ即チ其ノ
身皇國ニ生レテガラカ、ル畏コキ天祖ノ遺勅
ヲ尊崇セズシテ妄リニ異議ヲ立ツル徒ヲ敵者

ト假定スルナリ請フ看者之ヲ諒ゼヨサテ尊王
論師ガ共和論師ニ對シテ正ニ立量シテ云ク我
國皇統可王有法長不可變能別天祖遺勅故因猶
如天壤同喻猶如奕碁等異喻之ヲ合作法スレバ
諸天祖遺勅者皆見長不可變猶如天壤ト云フ之
ヲ新因明ノ合結總陳法ト云フ然ルニ古因明ニ
テハ五分作法シテ我國皇統可王長不可變宗天
祖遺勅故因猶如天壤喻天壤有天祖遺勅天壤即
長不可變我國皇統可王有天祖遺勅我國皇統可
王亦長不可變合是故得知我國皇統可王是長不

可變^結ト云フ如此古因明ニテハ天壤ノ遺勅ト皇統可王ノ遺勅トヲ別陳シ天壤ノ不可變ト皇統可王ノ不可變トヲ別陳シ又夕是故得知皇統可王長不可變ト別結スル故ニ甚ダ煩シケレドモ新因明ハ天壤ノ遺勅ト皇統可王ノ遺勅トヲ總陳シテ諸天祖遺勅者ト云ヒ又夕天壤ノ不可變ト皇統可王ノ不可變トヲ總陳シテ皆見不可變ト云ヒ次ニ猶如天壤ト同喻ヲ出ダス故ニ別結ノ煩ヲ用ヒズ而モ義理ハ能ク貫通ス如是諸ト皆トノ二字ヲ以テ合ト結トヲ總ジテ陳ブル

故ニ是ヲ合結總陳法ト云フ此レ所謂究理者後精於前ナリ如是合作法ノトキハ先因後宗ニシテ因ノ天祖遺勅ヲ先ニシ宗ノ不可變ヲ後ニシテ諸天祖遺勅者皆見不可變ト云フガ因明ノ定規ナリ次ニ離作法スルトキハ先宗後因ニシテ諸可變者皆見非^ト天祖遺勅猶如奕碁等ト云フヲ法トス是ハ上ノ合作法ニテ皇統可王長不可變ハ此度成立シテ何ニタル共和論師モ不服ハ申シ張ラレヌ^トニナリタレドモ更ニ濫ヲ止メシガ為ニ奕碁ノ異喻ヲ舉グ奕碁ハ碁子ヲ以テ碁

盤ニ置クト雖モ若シ自意ニ適セザレバ又夕廢
 スルコトヲ得ル廢置自在ノ者ニシテ容易ニ變
 ズベキナリ固ヨリ譬喩ハ一分ト傳ヘテ其ノ全
 分ヲ取ルベキモノニ非ズ今ハタゞ可變ノ一邊
 ヲ取リテ異喩トスルノミ然ルニ奕碁ハ天祖ノ
 遺勅アル者ニ非ズ故ニ諸口可變ノ者ハ皆ナ天
 祖ノ遺勅アルニ非ズ譬へバ奕碁等ノ如シ之ニ
 反ジテ觀レバ天祖ノ遺勅アル者ハ長不可變ナ
 リ譬へバ天壤ノ如シ天壤ハ天祖ノ遺勅ニ天壤
 無窮ト云フ天語アリテ長不可變ノ者ナリ千々

萬々歳ノ末ノ末マデ天覆地載ノ變ズルト云フ
 コトハナシ佛家ニハ成住壞空ノ説ア今マ亦夕
 其ノ如ク我が日本ノ皇統可王ハ幾ク久ク變ズ
 ベカラザルベシト成立スルナリ是ガ因明ノ正
 則ナリ又夕宗因喩三支中先ヅ宗ニ就キテ異名
 ノ區別ヲ示サバ皇統可王ヲ自性ト云ヒ長不可
 變ヲ差別ト云フ自性トハ皇統可王ハ皇統可王
 ノ自ニ局ル者ナリ依テ自性ト云フ差別トハ長
 不可變ハ餘ノ天壤へモ通ズル者ナリ依テ差別
 ト云フ又夕皇統可王ヲ有法ト云ヒ長不可變ヲ

法ト云フ有法ノ有ハ有徳有財等ト云フ有ト同
義ニシテ皇統可王ハ能ク長不可變ノ法ヲ有ス
ル故ニ有法ト云フ法ハ軌範ニシテ物ノ手本ト
ナルコトナリ又夕此ノ皇統可王ヲ所別ト云ヒ
長不可變ヲ能別ト云フ皇統可王ハ長不可變ニ
差別セラル、者ナリ長不可變ハ皇統可王ハ可
變ニ非ズ不可變ナリト能ク差別スル者ナリ又
夕皇統可王ハ前ニ陳スル故ニ前陳ト云ヒ長不
可變ハ後ニ陳スル故ニ後陳ト云フ又夕皇統可
王ハ前ニ説ク故ニ前説ト云ヒ長不可變ハ後ニ

説ク故ニ後説ト云フ又夕皇統可王長不可變ノ
前陳後説ヲ合シテハ總宗ト云ヒ離シテハ別宗
ト云フ其ノ別宗タル皇統可王ト長不可變トヲ
繋キ合シテ皇統可王長不可變ト熟シテ説クヲ
互相差別不相離宗ト云フ新因明ニ在テハ是ガ
正キ宗體ナリ古因明ニテハ或ハ前陳ノ皇統可
王ト後陳ノ長不可變トヲ宗體トスレドモ新因
明ニテハソレハ宗依ナリトシテ正ク不相離宗
ヲ指シテ宗體トスルナリ次ニ喻ニ就キテ異名
ヲ示サバ或ハ同喻異喻或ハ同品異品或ハ同法

異法或ハ同類異類ト云フ然ルニ古因明ニテハ
天壤ヲ以テ同喩ノ體トシ奕碁等ヲ以テ異喩ノ
體トス新因明ニテハ天壤奕碁ノ名言ハ喩依ニ
シテ喩體ニ非ズ正ク喩體トスル所ハ諸天祖遺
勅者皆見^ト長不可變ト云フ合作法ノ天壤ニ天祖
ノ遺勅ト長不可變トノ義ノ在ル所ヲ同喩ノ體
トシ諸可變者皆見^ト非^ト天祖遺勅ト云フ離作法ノ
奕碁ニ可變ト非天祖遺勅トノ義ノ在ル所ヲ異
喩ノ體トス若シ古因明ノ如ク喩依ヲ以テ喩體
トスルトキハ理ヲ以テ推究スルニ喩ガ喩ニナ

ラ又コトニナル喩依喩體ノ區別ハ爰ニ整スベキニアラズ此ノ宗因
喩ノ三支ヲ西洋ノ論理術所謂ロジックニ對映ス
ルニ西洋ノ論理術ハ宗因ノ二支ノミアリテ喩
ノ一支欠ケテナシ一二ノ例ヲ出サバ似^テ而非^ル者
ハ因^ニ真^ヲ亂^ル者ナリ能別郷愿ハ有法似^テ而非^ル者
ナリ因^ニ故郷愿ハ有法真^ヲ亂^ル者ナリ能別然レ
バ西洋デハ第一段ニ似而非者ト云フ因ト真ヲ
亂ルト云フ能別トヲ舉ゲ第二段ニ郷愿ハト云
フ有法ト似而非者ト云フ因トヲ舉ゲ第三段ニ
郷愿ノ有法ト真ヲ亂ル者ト云フ能別ヲ舉ゲ結

スルナリ今マ本量ヲ隨轉シテ作法セバ天祖ノ
遺勅ナル者ハ因長不可變ナリ能別皇統可王ハ
有法天祖ノ遺勅ナル者ナリ因故ニ皇統可王ハ
有法長不可變ナリ能別ト云ハンガ如シ依テ宗
因ニ支ノミニシテ喻ノ一支欠ケテ無シ又夕彼
ヲ因明作法ニ引キ直セバ郷愿有法應亂真能別
似而非故^{九カニ}因ノ宗ト因トハ有レドモ喻ノ一ハ欠
ケテ無シ無體闕ノ過アリ是ニ猶如^シ莠ト云フ同
喻ヲ舉グルトキハ始メテ三支具足ス依テ諸似^テ
而非者皆見亂真猶如^シ莠ト合作法ガナル唯ダ宗

因ノミニニテハ合作法ガナラヌ依テ義ガ確乎夕
ラザルナリ又夕凡ソ生アル者ハ因死スベキ者
ナリ能別人ハ有法生アル者ナリ因故人ハ有法
死スベキ者ナリ能別ト云フモ同例ニシテ人^{ハ有}
法應^シ必^ス死^ス能別有^ガ生^ガ故^ニ因ノ宗因ノミニシテ喻ハ
欠ケテ無シ依テ人^ハ應^シ必^ス死^スノ宗ガ確乎トシテ成
立セズ若シ此ノ宗因ノ上ニ猶如^シ禽獸ト云フ同
喻ヲ舉グルトキハ全璧無過ニハ非ザレドモ一
應ハ諸有生者皆見應^シ必^ス死^ス猶如^シ禽獸ト合作法ガ
ナル依テ人應^シ必^ス死^スノ宗ヲ成立スルコトヲ得ベ

シ然ルニロジックハ其ノ學實ニ希臘ノ學士亞立
斯度德ノ創說スル所ト云フ西史ニ曰ク紀元前
三百二十七年馬基頓王亞歷山得親ラ大兵ヲ帥
井テ印度ヲ攻メ進ミテ恒河ニ至リ其ノ國ノ諸
學士ヲ引見シ書ヲ著シテ之ヲ本國ノ亞立斯度
德ニ致スト亞立斯度德ハ即チ亞歷山得ノ師ナ
リ然ラバ則チ彼ノロジックハ安ンゾ當時亞歷山
得ノ採取スル所ニシテ源ヲ印度ノ因明法ニ發
スルニ非ザルコトヲ知ランヤ故ニ其ノ法タル
因明ト大同小異ナリ但シ前段ニ縷述シタル如

ク因明ハ喻支ヲ用ヒテ自悟ク他ノ兩益ヲ魚子
ロジックハ喻支ヲ用ヒズ專ラ自悟ノ一邊ヲ取ル
故ニ近來ニ至リテ頗ル委曲詳悉セリト雖モ因
明ヨリ之ヲ觀レバ兩益ト一益ト其ノ徧全完欽
ノ別アルコト智者ヲ待タズシテ知ルベキナリ

第六章 三量二因

先ヅ三量トハ南北其ノ傳ヲ異ニス南寺傳ニ曰
ク他比量自比量共比量ナリ他比量ノトキハ宗
因喻ノ三支俱ニ他許自不許ノ法ヲ擧ゲテ宗ニ
ハ汝執ト云フ簡別ヲ用ヒ因喻ニハ許ト云フ簡

別ヲ用フルガ法ナリ又夕自比量ノトキハ宗因
 喻俱ニ自許他不許ノ法ヲ擧ゲ宗ニハ我許ト云
 フ簡別ヲ用ヒ因喻ニハ許ト云フ簡別ヲ用フル
 ガ法ナリ又夕共比量ノトキハ宗因喻俱ニ共許
 ノ法ヲ擧ゲ簡別ヲ用ヒザルガ法ナリ若シ自他
 比量ニ簡別ヲ用ヒザルトキハ宗ニハ所別不極
 成ノ過ヲ招キ因ニハ隨一不成ノ過ヲ招キ喻ニ
 ハ俱不成ノ過ヲ招クコトニナル故ニ因明ハ自
 他ノ宗義ヲ審察シテ上ノ如ク簡別スルヲ肝要
 トス冠註中本三ノ六歳大疏云凡因明法所能立中若有簡別便無過

失ト佛者が耶蘇徒ニ對シテ云ク汝執耶和華非
 無始無終宗許能生者故因如許馬利亞同喻如許
 元素異喻如是簡別ヲ用フルガ他比量ノ例ナリ
 佛者が耶蘇徒ニ對シテ我許帝釋應居須彌頂宗
 許三ノ三十三天隨一故因如許餘三十二天同喻如許
 四王天異喻ト如此簡別ヲ用フルガ自比量ノ例
 ナリ此ノ他自共ノ三量モ詳ニ云ヘバ他比量ノ
 他比量他比量ノ自比量他比量ノ共比量自比量
 ノ他比量自比量ノ自比量自比量ノ共比量共比
 量ノ他比量共比量ノ自比量共比量ノ共比量ト

九種ノ差別アリテ各自ニ簡別ノ法アリ故ニ大
疏中味三十餘云然諸比量畧有_三種一他ニ自_三共他比量中
畧有_三共自比共比各三亦然合有_九共トソノ詳
ナルコトハ爰ニ盡スコト能ハズ次ニ因トハ
大疏冠註上味初節云因有_二種一_ハ生ニ了如種生芽能別起用故
名_ニ生因如燈照物能顯果故名_ニ了因生因有_三一
言生因ニ智生因三義生因了因有_三一智了因二
言了因三義了因トサテ生因ニ三アル中一ニ言
生因トハ立者ノ言能ク敵者ノ智解ヲ生ズルハ
種ノ芽ヲ生ズルガ如シ依テ言生因ト名ヅク生

即因言即生因兩重ノ持業釋ナリニニ智生因ト
ハ智トハ立者發言ノ智ナリ智ハ能ク言ヲ起ス
然レバ智ハ言生因ノ為ノ因トナル依テ生之因
ノ依主釋智即生因ノ持業釋ナリ三ニ義生因ト
ハ義ニ二種アリ一ハ道理ヲ義ト名ヅケニハ境
界ヲ義ト名ヅク道理義ノトキハ義ハ所詮ニテ
言ハ能詮ナリ義ハ言生因ノ言ニ詮顯セラル
故ニ所詮ノ義ニ能詮ノ言生因ノ生因ノ目ヲ與
ヘテ生因ト云フ全取他名ノ有財釋又夕義即生
因ノ持業釋ナリ又夕境界義ノトキハ義ガ境ト

ナリテ能ク敵證者ノ智ヲ生ズル故ニ生因ト名
ヅク此ノトキハ生即因義即生因ノ兩重ノ持業
釋ナリ然ルニ原ト宗義ヲ立ツルハ他ノ解ヲ生
ゼンガ為メニテ他ノ解ヲ生ズルハ立者ノ言ニ
因ル故ニ言生因ヲ正生トシ智ト義トヲ兼生ニ
攝スルナリ又タ了因ニ三アル中一ニ智了因ト
ハ智ハ敵證者ノ能立ノ因ヲ了ジ宗ヲ了ズルノ
智ナリ此ノ智能ク所説ヲ照解スルコト燈ノ物
ヲ照スガ如キ故ニ名ヅケテ了因トス了即因智
即了因兩重ノ持業釋ナリニ言了因トハ言ハ

立者能立ノ言ナリ立者ノ言ニ由テ敵者證者所
立ヲ了解スル智了因ノ為ニ因トナル故ニ名ヅ
ケテ言了因トス了之因ノ依主釋言即了因ノ持
業釋ナリ三ニ義了因トハ義ハ立者能立言下ノ
所詮ノ義ナリ此ノ義ガ境トナリテ能ク他ノ智
了ヲ生ズ智ハ所生ニテ義ハ能生ナリ然レバ義
ハ智了因ノ為ノ因トナル故ニ了之因ノ依主釋
義即了因ノ持業釋ナリ且ツ能立ノ義ニ由テ所
立ノ宗ヲ成ジ能ク宗ヲ照顯スル故ニ義モ亦タ
了因ト名ヅク此ノトキハ了即因義即了因ノ持

業釋ナリ然ルニ立者ノ智ハ久ク已ニ宗ヲ解ス
故ニ今マ宗ヲ立スルハ原ト他ノ解ヲ生ゼンガ
為メナルニ他ノ敵證者ノ智解正ニ是レ了因ナ
リ言ト義トハ之ヲ兼ヌレバ兼了ニ攝スルナリ

第七章 因有三相

因ニ三相アリトハ何ゾヤ曰ク徧是宗法性同品
定有性異品徧無性ノ三ナリ又夕三向三面三邊
トモ云フ第一ニ徧是宗法性トハ徧ジテ是レ宗
ガ法タル性ト訓ジテ徧ハ周遍ノ義ニテ行キ渡
ルナリ宗ハ有法能別ノ中前陳ノ有法ヲ指ス

法ハ軌範ニテ手本トナル義ナリ性トハ義性ナ
リ因ニハ宗ノ有法ニ行キ渡リテ當體ニ有法宗
ノ手本トナル義アルヲ云フ今マ本量ノ天祖遺
勅故ノ因ノ當體ガ皇統ノ有法ニ手本トナル義
ヲ具ス若シ此ノ第一相ヲ欠クトキハ因ノ四不
成ノ過トナル第二ニ同品定有性トハ同品ニ定
ムテ有ナル性ト訓ジテ同品トハ同ハ相似ノ義
品ハ體類ノ義ニテ相似ノ體類ヲ同品ト云フ即
チ同喩ノコトナリ此ノ同品ニ宗同品因同品ト
云フコトアリ宗ト相似同類ナルヲ宗同品ト云

ヒ因ト相似同類ナルヲ因同品ト云フ今ハ宗同
品ノコトナリ定有性トハ宗ト同類タル同喩ニ
因ノ義が必ズ關係シテ有ルト云フコトナリ有
トハ合スル義又夕之ヲ轉トモ云フ本量ニテ云
ハゞ不可變ノ義が宗同品ナリ此ノ宗同品ノ不
可變ニ天祖遺勅ノ因が屹度關係シテアリ天壤
無窮ト云フ遺勅ノ天語アリ豈ニ關係スルニ非
ズヤ是ヲ同品定有性ト云フ第三ニ異品徧無性
トハ異品ニ徧シテ無ナル性ト訓シテ異品トハ
異ハ別異ノ義品ハ聚類ノ義ニシテ宗ノ有法ト

別異ナル聚類ヲ異品ト云フ徧無性トハ其ノ異
品ニ徧シテ無ナル義性ヲ云フ此ノ異品ニ宗異
品因異品ト云フコトアリ宗ト異類ナルヲ宗異
品ト云ヒ因ト異類ナルヲ因異品ト云フ今ハ宗
異品ノコトナリ本量ニテ云ハゞ可變ノ義が宗
異品ナリ其ノ宗異品ノ異喩ノ可變ハ天祖遺勅
ニ非ザレバ天祖遺勅ノ因ハ更ニ異喩ノ可變ニ
關係ナシ是ヲ異品徧無性ト云フ此ノ後二相中
或ハ全分或ハ一分同品定有ヲ欠キ或ハ異品徧
無ヲ欠クヲ不定ノ過トシ後二相全欠ヲ四相違

トス此ノ因ノ三相ハ頗ル要義ナリ此ノ三相ヲ具スルヲ正因トシ此ノ三相ヲ具セザルヲ邪因トス邪因ハ因故ナリト雖モ因故タルヲ成ズルコト能ハズ

第八章 足目九句

九句因ハ天地始創ノ時キ足目仙人ノ發揮ナリ同品ニ有^クト非^ク有^クト有^ク非^ク有^クトノ三句アリ異品ニモ有^クト非^ク有^クト有^ク非^ク有^クトノ三句アリ之ヲ相乗ズルトキハ三三九句トナル先ヅ同品有ニ異品ノ三句ヲ乗ズルトキハ同品有異品有ノ句ト同品

有異品非有ノ句ト、同品有異品有非有ノ句トノ三句ヲ成ズ次ニ同品非有ニ異品ノ三句ヲ乗ズルトキハ同品非有異品有ノ句ト、同品非有異品非有ノ句ト、同品非有異品有非有ノ句トノ三句ヲ成ズ後ニ同品有非有ニ異品ノ三句ヲ乗ズルトキハ同品有非有異品有ノ句ト、同品有非有異品非有ノ句ト、同品有非有異品有非有ノ句トノ三句ヲ成ズ已上三三合シテ九句因ト云フ爰ニ同品ト云フハ宗同品因同品ノ中ニテハ宗同品ノコトナリ又タ異品ト云フモ宗異品、因異品ノ

中ニテハ宗異品ノコトナリ有ト非有ト有非有
 トハ有トハ因ガ喩ニ干預シテ有ナルコトナリ
 非有トハ因ガ喩ニ干預セズシテ無ナルコトナ
 リ有非有トハ因ガ喩ニ一分ハ干預シ一分ハ干
 預セヌコトナリ此ノ九句中第二ノ同品有異品
 非有ト第八ノ同品有非有異品非有トノ二句ハ
 正因ナリ第四ノ同品非有異品有ト第六ノ同品
 非有異品有非有トノ二句ハ相違因ナリ次下因
 中此ノ二八四六ノ餘ノ第一ノ同品有異品有ト
 第三ノ同品有異品有非有ト第五ノ同品非有異

品非有ト第七ノ同品有非有異品有ト第九ノ同
 品有非有異品有非有トノ五句ハ不定因ナリ因亦
十四過 依テ總攝ノ頌ニ二八為正因四六相違攝
中出 所餘皆不定正似應當知ト云フ試ニ世事ニ活用
 ノ假リニ九句ノ作法ヲ示スベシ

○第一ニ同品有異品有トハ因ノ十四過中六不
 定中第一ノ共不定ニシテ各宗民有地寺院住職
 ガ政府ニ對シテ正ニ立量シテ云ク此寺院敷地
 我單有宗有地券證故因如餘單有耕地同喩如村
 社敷地異喩○以下此ノ有地券證故ノ因ハ宗同

品ノ餘ノ單有耕地ニモ干預シ宗異品ノ村社敷地ニモ干預ス依テ同品有異品有ノ句トナル

○第二ニ同品有異品非有トハ是ハ正因ニテ本量ニ尊王論師ガ共和論師ニ對シテ我國皇統可

王長不可變宗天祖遺勅因故如天壤同喻如奕碁等異喻ト立量スルガ如シ天祖遺勅故ノ因ハ宗

同品ノ天壤ニハ干預シテ宗異品ノ奕碁ニハ干預セズ依テ同品有異品非有ノ句トナル

○第三ニ同品有異品有非有トハ六不定ノ第四同全異分ノ句ニシテ政府ガ下民ニ對シテ山林

課租宗稅有收穫故因如耕地等同喻如不毛地河

池海異喻ト立ツルガ如シ有收穫故ノ因ハ宗同品ノ耕地等ニハ全分干預シ宗異品ノ不毛地ノ

一分ニハ干預セズシテ河池海ノ一分ニハ干預シテアリ依テ同品有異品有非有ノ句トナル

○第四ニ同品非有異品有トハ因ノ十四過中相違因ニテ斷見外道ガ佛者ニ對シテ人之生前死

後應必無宗比例知有故因猶如龜毛兔角同喻猶如昨日明日異喻ト立ツル如シ比例知有故ノ因

ハ須ク有ナルベキ宗異品ノ龜毛兔角ニ非有ニ

シテ須ク非有ナルベキ宗異品ノ昨日明日ニ却
テ有ナリ具ニハ四相違下出依テ同品非有異品有ノ句ト
ナル

○第五ニ同品非有異品非有トハ六不定ノ第二
不共不定ニテ政府ガ下民ニ對シテ此耕地官有
宗培養穀物故因如鎮臺鋪地同喻如農商家具異
喻ト立ツルガ如シ培養穀物故ノ因ハ宗同品ノ
鎮臺鋪地ニモ干預セズ宗異品ノ農商家具ニモ
干預セズ依テ同品非有異品非有ノ句トナル
○第六ニ同品非有異品有非有トハ所謂相違因

ナリ斷見ガ佛者ニ對シテ人之生前死後應必無
宗比例知有故因猶如龜毛兔角同喻猶如昨今明
三日異喻ト立ツルガ如シ此ノ比例知有ノ因ハ
宗同品ノ龜毛兔角ニ非有ニシテ宗異品ノ昨日
明日ノ一分ニ有ニシテ今日ノ一分ニ非有ナリ
今日ハ比例知有ノ者ニ非ズ現量知有ノ者ナリ
依テ同品非有異品有非有ノ句トナル

○第七ニ同品有非有異品有トハ六不定ノ第三
同分異全不定ニテ下民ガ政府ニ對シテ池沼可
為無稅宗有地券證故因如墓池海面等同喻如耕

地宅地ノ異喻ト立ツルガ如シ此ノ有地券證故ノ
 因ハ宗同品ノ墓地ノ一分ニハ有ナレドモ海面
 ノ一分ニハ非有ナリ而モ宗異品ノ耕地宅地ニ
 ハ却テ有ナリ依テ同品有非有異品有ノ句トナ
 ル
 ○第八ニ同品有非有異品非有トハ亦夕正因ニ
 テ本量ノ同喻ニ北極ノ一ヲ加ヘテ我國皇統可
 王長不可變宗天祖遺勅分故因如天壤北極同喻ト
 立ツルガ如シ天祖遺勅ノ因ハ宗同品ノ天壤ノ
 一分ニ有ニシテ北極ノ一分ニハ非有ナリ北極

ハ不可變ナレドモ天祖ノ遺勅アルニ非ズ故ニ
 非有ナリ而モ宗異品ノ夾碁ニハ全分非有ナリ
 依テ同品有非有異品非有ノ第八正因ノ句トナ
 ル然ルニ第二正因ノ如キハ同品有異品非有ユ
 エニ疑ハナケレドモ此ノ第八正因ハ同品有非
 有ユエニ同品有ノ邊ハ過ハナケレドモ同品非
 有ノ邊ハ過トナルベシト云フ疑ヒアリ是ハ因
 ト宗ト相望スルニ寛狭ノ不同アリテ自ラ四句
 分別トナル就中寛因ヲ以テ狭宗ヲ成ズルノ一
 句ハ因ガ寛ニシテ宗ノ外ニ溢ル、故ニ不定ノ

過トナレドモ寛因ヲ以テ寛宗ヲ成ジ狭宗ヲ以テ寛因ヲ成ジ狭因ヲ以テ狭宗ヲ成ズルノ三句ハ不定ノ過ナシ今マ第八正因ノ例ニ出ダス北極ノ一分ハ宗同品ニテ不可變ノ者ナレドモ天祖ノ遺勅アルニハ非ザル者ナリ然レバ不可變ノ宗ハ寛ニテ天祖遺勅ノ因ハ狭ト云フベシ即チ狭因ヲ以テ寛宗ヲ成ズルノ例ナレバ過トハナラズ

○第九ニ同品有非有異品有非有トハ六不定中第五俱分不定ナリ愛知縣下、人民ガ他縣下、人民

ニ對シテ愛知、皇國上等、都會ナレシ宗有鎮臺故ニ因如三府同喻如餘處異喻ト立ツルガ如シ鎮臺ノ因ハ宗同品ノ三府中ノ京都府ノ一分ニハ非有ニシテ東京府大坂府ノ一分ニハ有ナリ又夕宗異品ノ餘處中金澤廣島等ノ一分ニハ有ニシテ餘ノ處ニハ非有ナリ依テ同品有非有異品有非有ノ句トナル已上三相九句ハ立量作法ノ最モ緊要ナル者ナリ例ヲ算學ニ取レバ猶ホ九九ノ要數ノ如シ須臾モ離ル可ラズ豈ニ可不究乎

第九章 似宗九過

似宗ノ九過トハ一ニ現量相違二ニ比量相違三ニ自教相違四ニ世間相違五ニ自語相違六ニ能別不極成七ニ所別不極成八ニ俱不極成九ニ相符極成ヲ云フ

○第一ニ現量相違トハ現今當前ノ道理ニ相違スルヲ云フ譬ヘバ現ニ色ヲ見ツ、色ハ所見ニ非ズト云ヒ現ニ聲ヲ聞キツ、聲ハ所聞ニ非ズト云フガ如シ

○第二ニ比量相違トハ立者ノ宗ト敵者ノ因ト相違スルヲ云フ譬ヘバ立者ガ諸縣非政府ト宗

ヲ舉グルニ敵者ハ忽チ能違ノ量ヲ作りテ諸縣政府保護人民故因如内務省同喻ト云フガ如シ凡ソ比量トハ敵論者ガ彼ト此ト比度比例シテ道理ヲ觀ズルノ智ヲ云フ前譬ノ如ク敵論者ガ比例ノ智ヲ以テ諸縣保護人民ノ場處ユエニ是レ亦タ政府ニシテ内務省ノ如シト發難セザルヲ得ザル勢ヒニ至ラシムルハ是レ立者ガ彼ノ比例智ニ相違ヲ生ズル宗ヲ立ツルガ故ニテ立者ノ過トス此ノ外ニ因ヲ比量ト云フ義モアレドモ因ニ由テ生ズル敵智ナレバ到底一致ニ

歸スト知ルベシ本量ノ如ク皇統可王長不可變
ト云ヘバ更ニ敵論者ノ比例智ニ違セズ依テ比
量相違ノ過ヲ離ル

○第三ニ自教相違トハ所立ノ宗ガ自宗所説ノ
道理ニ違スルヲ云フ譬ヘバ神道者ガ高天原ハ
無ナルベシト立テ佛者ガ天上界ハ無ナルベシ
ト立ツルガ如シ神道者ガ自宗ハ高天原アリト
立テ佛者ノ自宗ハ天上界アリト立ツベキニ自
ラ高天原ハ無シ天上界ハ無シト云ヒテハ自ガ
自ニ違スルコトニナル依テ自教相違ノ過トス

今マ本量ノ如ク尊王論師ガ皇統可王長不可變
ト云ヘバ更ニ自ガ自ニ違スル過ナシ依テ自教
相違ノ過ヲ離ル

○第四ニ世間相違トハ法ノ道理ハ立ツベケレ
ドモ世間ニ通ゼヌヲ云フ譬ヘバ長壽ハ願フ所
ニ非ズ金貨ハ欲スル所ニ非ズ女色ハ好ム所ニ
非ズト云フガ如シ若シ出世間ニ約スルトスレ
バ道理上ハ立ツベケレドモ世間中人皆ナ長壽
ヲ願ヒ金貨ヲ欲シ女色ヲ好ム然ルニ已レ獨リ
屈原ガ獨醒ヲ學ビテ偏僻ヲ云ヒテモ世間ニ通

目明海目
卷之十一
ゼズ依テ是ヲ世間相違ノ過トス今マ本量ニ皇
統可王長不可變ト云フヲ共和論師ハ服スマジ
ケレドモ餘ノ日本國人ハ皆ナ共ニ皇國ハ皇統
一系ヲ以テ萬國無比ノ國體トスルユ工何ニハ
變ズレドモ帝王ハ不可變ト確信ス故ニ世間相
違ノ過ヲ離ル

○第五ニ自語相違トハ自語ノ體ト義トガ相違
スルヲ云フ譬ヘバ青葉ノ紅葉細根ノ大根鐵製
ノ土瓶ト云フガ如シ又夕地球ハ圓ナル者ニ非
ザルベシト云フガ如シ青葉ナラバ紅葉ト云フ

ベカラズ細根ナラバ大根ト云フベカラズ鐵製
ナラバ土瓶ト云フベカラズ又夕地球ノ球ハ圓
キ義ナル故ニ圓ナル者ニ非ズト云フベカラズ
然ルニ右ノ如ク云フトキハ因喻ヲ待タズシテ
現在申シ陳ブル宗ノ一言句中ニ前後相違スル
コトニナル故ニ自語相違ノ過トス今マ本量ニ
皇統可王長不可變ト云フニ更ニ如此ノ過ナシ
故ニ自語相違ノ過ナシ已上五過ハ陳那モ天主
モ俱ニ之ヲ立ツルナリ

○第六ニ能別不極成トハ所別ハ有法ナリ能別

ハ法ナリ此ノ能別所別ハ宗依ト云ヒテ議論ノ
本トナレバ立敵共ニ許ス者デナクテハナラヌ
若シ此ノ二別ノ中立者或ハ敵者が許サヌコト
アレバ議論ノ本ガナケレバ其ノ是非ヲ論ズル
宗體ノ立タザルヲ云フ就中今ハ後陳能別ノ法
ヲ敵者ハ許サヌ者ニ就キテ宗ヲ立スルヲ能別
不極成ト云フ極成ハ至極成就ノ義ニテ道理至
極シテ元ヨリ成立シテアルヲ云フ譬ヘバ佛者
ガ耶蘊ノ徒ニ對シテ五大洲ハ須彌界ニ攝スト
云ハンガ如シ耶蘊ノ徒ハ須彌界ト云フ者ヲ許

サヌ故ニ能別不極成ノ過トナル若シ自比量ナ
レバ過ナシ其ノトキハ許ノ言ヲ用ヒテ許須彌
界攝トスベシ然ルニ本量ノ如キハ共和論師モ
亦夕後陳能別ノ長不可變ト云フ名言ハ元ヨリ
共許極成ユエニ此ノ過ヲ離ル

○第七ニ所別不極成トハ前陳有法ノ言ヲ極成
シテ許サヌヲ云フ譬ヘバ耶蘊ノ徒ガ佛者ニ對
シテ耶蘊ハ救世者ナルベシト云フガ如シ立論
ノ耶蘊ノ徒ハ耶蘊ト云フコトヲ許セドモ敵論
ノ佛者が許サヌ故ニ所別不極成トル然レドモ

自比量ナレバ過ナシ其ノトキハ許ノ言ヲ加ヘ
テ許耶蘇ト云フベシ今マ本量ノ所別タル皇統
可王ハ何タル共和論師モ共許極成ユエニ此ノ
過ナシ

○第八ニ俱不極成トハ所別能別共ニ敵者ノ許
サ又者ニ就キテ宗ヲ立ツレバ敵者ノ方ニテ一
向相手ニナラ又故ニ俱不極成ト云フ譬ヘバ耶
蘇ノ徒ガ佛者ニ對シテ耶蘇應被處十字架ト云
フガ如シ又夕佛者ガ耶蘇ノ徒ニ對シテ帝釋應
居須彌頂ト云フガ如シ立ノ耶蘇ノ徒ニテハ前

陳所別ノ耶蘇ト云フコトモ後陳能別ノ十字架
ニ處セラルト云フコトモ許セドモ敵ノ佛者
ハ許サ又故ニ一向ニ相手ニナラ又又夕立ノ佛
者ハ前陳所別ノ帝釋ト云フコトモ後陳能別ノ
須彌ト云フコトモ許セドモ敵ノ耶蘇ノ徒ハ許
サ又故ニ一向相手ニナラ又是ヲ俱不極成ト云
フ但シ因明ノ規矩トシテ自比量ノトキハ我許
ノ簡別ヲ用フレバ過ナシ前ノ能別不極成所別
不極成ニ准ジテ知ルベシ然ルニ本量ハ前陳所
別ノ皇統可王モ後陳能別ノ長不可變モ敵ノ共

和論師ハ共許極成ノ故ニ此ノ過ヲ離ル
○第九ニ相符極成トハ元ヨリ立量ヲ用フルハ
立敵ニ論者ガ一許一不許ノ兩端ヲ決スルヲ云
フ立敵共許スルコトヲ宗ニ立ツレバ兩方ノ義
ガ符合シテ復タ論ズルニ及バズ全ク無用トナ
ルヲ相符極成ト云フ骨折ガ虚クナル故ニ虚功
トモ云フ又タ本来成立シタルコトナレバ立已
成トモ云フ譬へバ裁判ヲ仰グハ原告被告ノ義
ガ違フ故ナリ原告ハ金圓ヲ受ケ取ラ子バナラ
又ト云ヒ被告ハ金圓ヲ辨償セ子バナラ又ト云

フ兩義一致ナレバ裁判ヲ仰グハ虚功ト云フ者
ナリ立已成ト云フ者ナリ相符極成ト云フ者ナ
リ故ニ甲ノ佛者ガ乙ノ佛者ニ對シテ天道地獄
ハ實有ナリト云フトキハ乙ノ佛者モ同論ユエ
立敵共ニ其ノ義一致ナリ一致ノ義ヲ對論スル
ヲ此ノ過ニ攝ス今マ本量ニ舉グル前陳所別ノ
宗依タル皇統可王ト後陳能別ノ宗依タル長不
可變ト之ヲ組ミ合セテ皇統可王長不可變ト云
へバ立ノ尊王論師ハ許セドモ敵ノ共和論師ハ
之ヲ許サズ一許一不許ユエニ諍ヒトナル依テ

相符極成ノ過ヲ離ル已上四過ハ天主ノ加フル
所ナリ前ノ五過ヲ併セ是ヲ似宗ノ九過トス

因明活眼卷之上終

